



図 1.3-3 (9) 宮崎県日南市栄松ビーチの調査地点



図 1.3-3 (10) 鹿児島県南さつま市の吹上浜（前ノ浜）の調査地点

1.3.2 モニタリング調査の方法

調査の方法は、表 1.3-3 に示すモニタリング調査ガイドラインに基づいて実施する。

表 1.3-3 モニタリング調査ガイドライン

1. サンプルング単位（汀線方向の幅）

海岸の調査時の汀線から海岸の后背地までの間を対象とし、サンプルング単位（汀線方向の幅）として50mを基準とするが、調査実績等から十分な結果を得ることができるサンプルング単位が把握されれば、その範囲で実施する。調査範囲は、GPSなどを用いて測定し、範囲を再現できるようにすること。

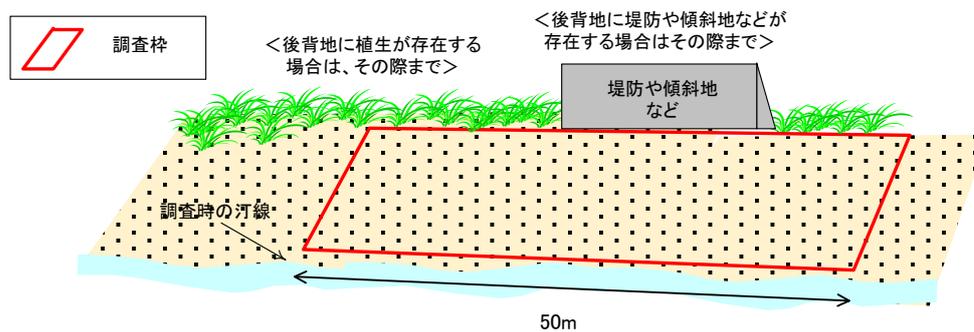


図1 サンプルング範囲概略図

2. サンプルング頻度

調査頻度は、年1回とする。

3. サンプルング方法

調査では、長さが2.5cm以上のごみを全て回収する。調査範囲に植生等がある場合は、植物類をむやみに引き抜いたり、植生内にむやみに立ち入らないよう配慮する。特に環境保全上の価値が高い動植物等が確認された場合は、その取り扱いに留意する。また、調査範囲が自然公園に含まれる場合には、「自然公園法」等の関連諸法令を遵守する。

調査時に記録すべきデータの例は以下のとおり。

- ・ 調査日時
- ・ 調査開始時間及び終了時間
- ・ 最後に対象範囲が清掃された日付（調査の一環、又は他の海岸管理プログラムによって）
- ・ 調査対象となった海岸の長さ
- ・ 調査時の海岸の幅（当時の潮位から海岸の后背地まで）
- ・ 調査参加人数
- ・ 動かすことができない大きな漂着物 など

4. ごみの分類方法

過去の調査で用いた分類表を改良し、それらの調査結果及びICCのデータシートを利用した調査結果と比較可能となる分類リスト（表 1.3-4）を作成し、これに従って回収したごみを分類する。また、原則として海藻類は対象としない。

5. ごみの定量方法

分類した漂着ごみは、分類項目毎に重量、容量、個数を測定する。容量は漂着ごみをごみ袋やバケツ等に入れた「かさ容量」で測定する。なお、回収中に破損等により個数が変化してしまう人工物の破片（プラスチック類の破片、発泡スチロール類の破片等）及び灌木については、個数の計測はせず、重量及び容量のみを測定する。

また、ペットボトル、ペットボトルのキャップおよび漁具の浮子については、言語表記別に測定する。

6. 記録表

調査時には、以下の3種類の記録表を用いることとする。また、調査対象地点における漂着物の状況を記録するため、写真撮影を行う。

- ・調査地点特性の記録表
- ・ごみの特性の記録表
- ・大きな漂着物の記録表

7. 品質保証・品質管理

回収調査を実施するにあたっては、調査マニュアルを作成し、調査関係者に対し調査手法を周知・徹底する。

8. 回収したごみの適正な処理

回収したごみは、調査主体自らの責任において、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、地元自治体の廃棄物処理計画や指導に従って適正に処理を行う。

表 1.3-4 (1) 漂着物の分類表

平成30年度漂着ごみ調査分類			
素材	分類名称		
プラスチック	p	ボトルのキャップ、ふた	
	p	ボトル<2L	飲料用(ペットボトル)<2L
	p		その他のプラボトル<2L
	p	ボトル、ドラム型、燃料用&バケツ ≥2L	飲料用(ペットボトル) ≥2L
	p		その他のプラボトル類 ≥2L
	p	ストロー、フォーク、スプーン、マドラー、ナイフ	ストロー、マドラー
	p		フォーク、ナイフ、スプーン等
	p	食品容器(ファーストフード、カップ、ランチボックス&それに類するもの)	カップ、食器
	p		食品容器
	p	ポリ袋(不透明&透明)	食品用・包装用の袋(食品の包装・容器)
	p		レジ袋
	p		その他プラスチック袋
	p	ライター	
	p	たばこ吸殻(フィルター)	
	p	シリンジ、注射器	
	p	生活雑貨(歯ブラシ等)	
	p	ブイ	
	p	漁具(ルアー、トラップ&つぼ)	アナゴ筒(フタ、筒)
	p		カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)
	p		カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)
	p		釣りのルアー・浮き
	p		かご漁具
	p		釣り糸
	p		その他の漁具
	p	ロープ・ひも	
	p	漁網	
	p	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	
	p	苗木ポット	
	p	シートや袋の破片	
	p	硬質プラスチック破片	
	p	プラスチック梱包材	
	p	花火	
	p	玩具	
	p	ウレタン	
	p	上記分類になく数が少ないもの	
	p	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	
	Ep	食品容器(発泡スチロール)	
	Ep	コップ、食器(発泡スチロール)	
	Ep	発泡スチロール製フロート・ブイ	
	Ep	発泡スチロールの破片	
Ep	発泡スチロール製包装材		
Ep	上記分類になく数が少ないもの		
Ep	分類に無いもので多数見つかった場合には記載		

注) 素材のpはプラスチック、Epは発泡スチロール

 :人工物
 :自然物

表 1.3-4 (2) 漂着物の分類表

平成30年度漂着ごみ調査分類		
	素材	分類名称
天然繊維・革	Nf	ロープ・ひも
	Nf	上記分類になく数が少ないもの
	Nf	分類に無いもので多数見つかった場合には記載

平成30年度漂着ごみ調査分類		
	素材	分類名称
木・木材系	w	木材(物流用パレット、木炭等含む)
	w	上記分類になく数が少ないもの
	w	分類に無いもので多数見つかった場合には記載

ガラス・陶器	g	建築資材
	g	食品容器
	g	食品以外容器
	g	コップ、食器
	g	電球
	g	蛍光灯
	g	ガラス又は陶器の破片
	g	上記分類になく数が少ないもの
	g	分類に無いもので多数見つかった場合には記載

電化製品 電気機器	e	電化製品 & 電子機器
--------------	---	-------------

自然物	No	灌木(植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満)
	No	流木(径10cm以上、長さ1m以上)
	No	その他(死骸等)
	No	分類に無いもので多数見つかった場合には記載

金属	m	金属製コップ・食器
	m	フォーク・ナイフ・スプーン等
	m	ピンのふた、キャップ、プルタブ
	m	アルミの飲料缶
	m	スチール製飲料用缶
	m	その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)
	m	金属製漁具
	m	金属片
	m	ワイヤー、針金
	m	上記分類になく数が少ないもの
	m	分類に無いもので多数見つかった場合には記載

その他	Ot	
	Ot	

: 人工物
 : 自然物

紙・段ボール	Pa	紙製コップ・食器
	Pa	食品包装材
	Pa	紙製容器(飲料用紙パック等)
	Pa	タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)
	Pa	紙片(段ボール、新聞紙等を含む)
	Pa	花火
	Pa	紙袋
	Pa	上記分類になく数が少ないもの
	Pa	分類に無いもので多数見つかった場合には記載

ゴム	r	靴(サンダル、靴底含む)
	r	タイヤ
	r	ゴムの破片
	r	玩具・ボール
	r	風船
	r	上記分類に無いもので数が少ないもの
	r	分類に無いもので多数見つかった場合には記載

2. 回収調査等の調査結果

2.1 調査実施日

調査実施日を表 2.1-1 に示す。

表 2.1-1 調査実施日

調査地点	調査実施日
北海道紋別市 オサム口原生花園付近	平成 30 年 11 月 11 日
北海道岩内町 雷電海岸	平成 30 年 11 月 9 日
青森県深浦町 風合瀬海岸	平成 30 年 11 月 13 日
福島県いわき市 いわきサンマリーナ南側	平成 31 年 1 月 10 日
千葉県富津市 布引海岸	平成 30 年 12 月 14 日
東京都八丈町 底土海水浴場	平成 30 年 12 月 16 日
大阪府岬町 淡輪付近の海岸	平成 30 年 12 月 15 日
島根県松江市 古浦海水浴場	平成 30 年 12 月 20 日
宮崎県日南市 栄松ビーチ	平成 31 年 1 月 18 日
鹿児島県南さつま市 吹上浜（前ノ浜）	平成 31 年 1 月 15 日

2.2 調査地点ごとの調査結果

調査地点ごとに、地点の状況、2 分類別の組成、人工物の大分類別の組成、全回収物の大分類別の組成、プラスチックの容器包装等の組成について、調査結果をとりまとめた。

調査地点ごとに調査枠の回収前、回収後の状況の写真と 2 分類別の組成と人工物の大分類別の組成を図表に示す。

ここで、2 分類とは、「人工物、自然物」である。

人工物とは、分類表（表 1.3-4）の「調査分類：プラスチックから電化製品・電気機器までの項目」である。

漁具は、「調査分類：プラスチックのうち、ブイ、漁具（ルアー、トラップ&つぼ）、ロープ・ひも、漁網、発泡スチロール製フロート・ブイ、調査分類：金属の金属製漁具」である。

自然物は、「調査分類：自然物」である。

さらに、調査地点ごとにプラスチックの容器包装等の組成を図表に示す。全回収物の大分類の区分は分類表（表 1.3-4）に、プラスチックの容器包装等の区分は、表 2.2-1、表 2.2-2 に示す。

過年度調査結果と比較できる場合には、これらを図表に示す。本年度調査と過年度調査では、分類表が若干異なっており、比較できるように集計を変更するなど、留意して解析した。

過年度（平成 26 年度～29 年度）までの分類方法について、今年度見直しを行った。

過年度調査と ICC（国際海岸クリーンアップ（International Coastal Cleanup））の分類表を比較して、ICC の分類表にある品目名で、過年度調査では「その他（具体的に）」に分類される品目を、独立した分類項目とした。具体例として、大分類の紙・段ボールのなかで、「その他（具体的に）」に分類される、タバコのパッケージ、花火、紙袋を独立した分類項目とした。

また、ICC の分類表にある品目で、過年度調査では、複数の品目がまとまった項目に分類されるものを独立させた。具体例として、過年度調査の大分類のプラスチックのなかで、「ストロー、フォーク、スプーン、マドラー、ナイフ」を今年度は「ストロー・マドラー」と「フォーク、ナイフ、スプーン等」に項目を分離した。

表 2.2-1 プラスチックの容器包装等

区分	分類
容器包装	飲料用ボトル
容器包装	その他プラボトル類
容器包装	容器類（調味料容器、トレイ、カップ等）
容器包装	ポリ袋
漁具	漁網、ロープ
漁具	ブイ
漁具	発泡スチロールブイ
漁具	その他漁具
製品	カトラリー（ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー）
製品	その他プラスチック（ライター、注射器、発泡スチロール片等）

表 2.2-2 プラスチックの容器包装等（現地調査での分類表との対照）

容器包装等の区分		平成30年度漂着ごみ調査分類		
	分類	素材	分類名称	
容器包装	飲料用ボトル	p	ボトルのキャップ、ふた	
		p	ボトル<2L	飲料用(ペットボトル)<2L
		p	ボトル、ドラム型、燃料用&バケツ ≥2L	飲料用(ペットボトル)≥2L
容器包装	その他プラボトル類	p	ボトル<2L	その他のプラボトル<2L
		p	ボトル、ドラム型、燃料用&バケツ ≥2L	その他のプラボトル類≥2L
容器包装	容器類 (調味料容器、 トレイ、カップ等)	p	食品容器(ファーストフード、カップ、ランチボックス&それに類するもの)	カップ、食器
		p	食品容器(ファーストフード、カップ、ランチボックス&それに類するもの)	食品容器
		Ep	食品容器(発泡スチロール)	
		Ep	コップ、食器(発泡スチロール)	
		Ep	発泡スチロール製包装材	
容器包装	ポリ袋	p		食品用・包装用の袋(食品の包装・容器)
		p	ポリ袋(不透明&透明)	レジ袋
		p		その他プラスチック袋
漁具	漁網、ロープ	p	ロープ・ひも	
		p	漁網	
漁具	フイ	p	フイ	
漁具	発泡スチロールフイ	Ep	発泡スチロール製フロート・フイ	
漁具	その他漁具	p		アナゴ筒(フタ、筒)
		p		カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)
		p		カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)
		p	漁具(ルアー、トラップ&つぼ)	釣りのルアー・浮き
		p		かご漁具
		p		釣り糸
		p		その他の漁具
製品	カトラリー(ストロー、フォーク、 スプーン、ナイフ、マドラー)	p	ストロー、フォーク、スプーン、マドラー、ナイフ	ストロー、マドラー
		p		フォーク、ナイフ、スプーン等
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、 発泡スチロール片等)	p	苗木ポット	
		p	ライター	
		p	たばこ吸殻(フィルター)	
		p	シリンジ、注射器	
		p	生活雑貨(歯ブラシ等)	
		p	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	
		p	シートや袋の破片	
		p	硬質プラスチック破片	
		p	プラスチック梱包材	
		p	花火	
		p	玩具	
		p	ウレタン	
		p	上記分類になく数が少ないもの	
		p	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	
		Ep	発泡スチロールの破片	
Ep	上記分類になく数が少ないもの			
Ep	分類に無いもので多数見つかった場合には記載			

注) 素材のpはプラスチック、Epは発泡スチロール

2.2.1 北海道紋別市オサム口原生花園付近

北海道紋別市のオサム口原生花園付近は、海岸線長約 1km の砂浜で、対馬海流の下流（宗谷暖流）に位置し、冬季には流氷が漂着する海岸で、基本的に南東流の開放性の海岸である。主要な河川に近く、また、本調査以外で清掃は行われていない。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 288.3kg、容量 1,908L、個数 131 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 98.4%、96.9%、個数では人工物が 96.2%と多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は灌木で、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量では木・木材系が 25.6%、容量、個数では、プラスチックがそれぞれ 57.3%、65.9%と多かった。重量の割合が多かった木・木材系は木材（1.2kg）であった。

プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、容器包装がそれぞれ 69.1%、80.7%、43.4%と多かった。重量、容量、個数の割合が多かった容器包装は、飲料用ボトル（0.5kg、19.1L、20 個）であった。

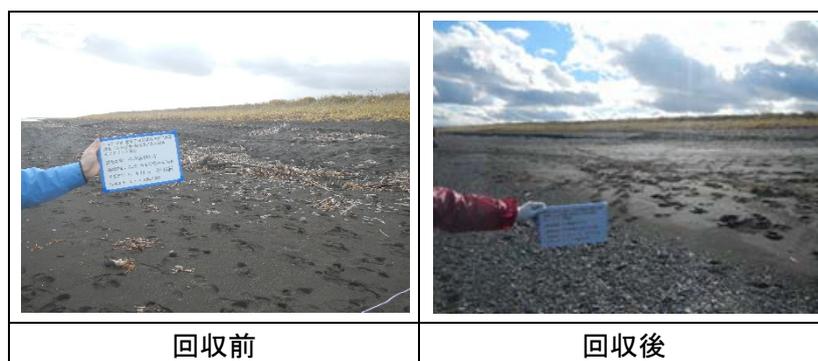


図 2.2-1 調査枠の回収前・回収後の状況

表 2.2-3 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	4.7	59	126
自然物	283.6	1,849	5
合計	288.3	1,908	131

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.2	34	83
天然繊維・革	0.2	1	5
ガラス・陶器	1.0	3	5
金属	0.3	6	16
紙・段ボール	0.0	0	0
ゴム	0.9	6	2
木・木材系	1.2	10	15
電化製品・電気機器	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	4.7	59	126

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

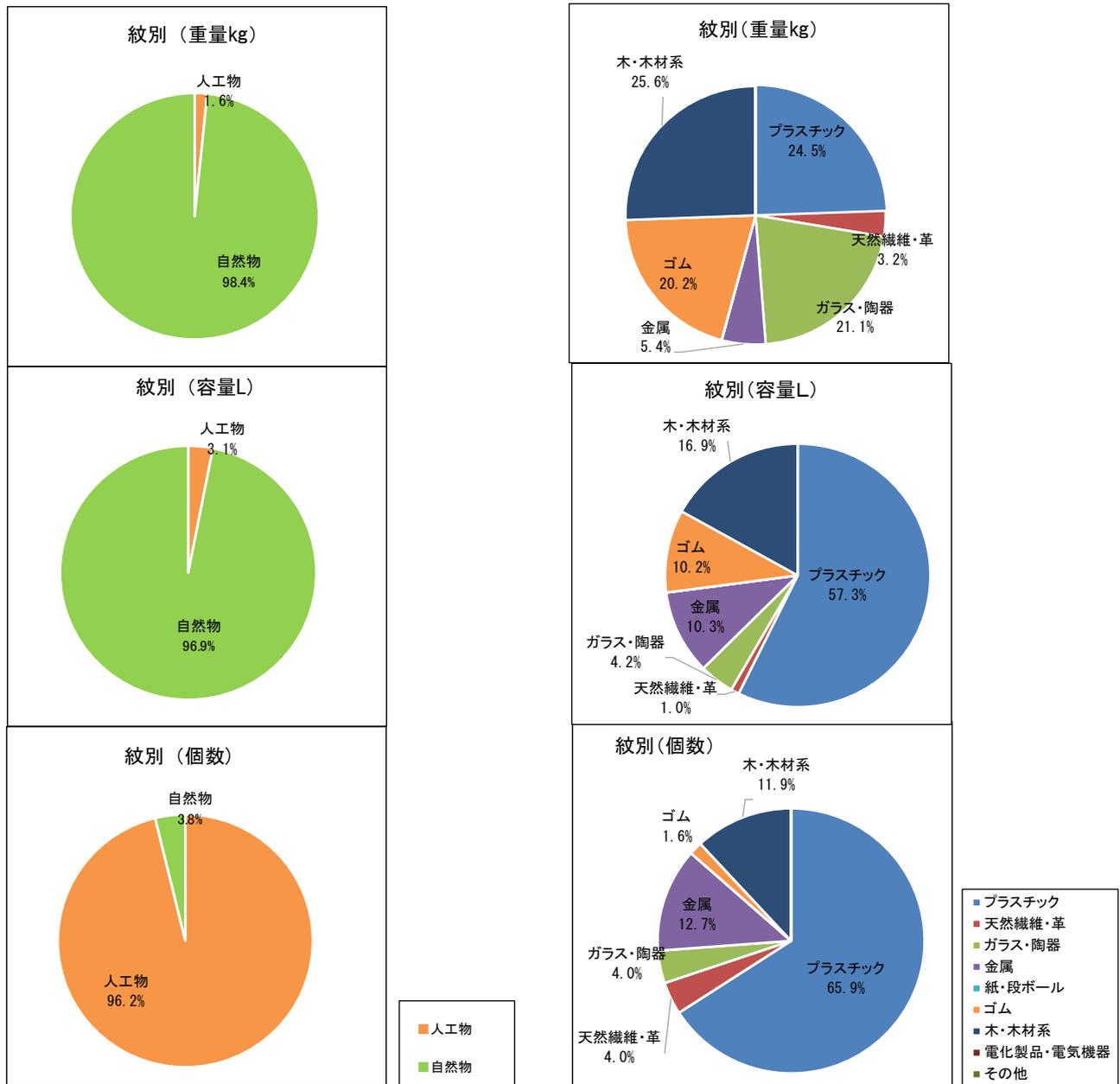


図 2.2-2 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-4 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数(個)	個数(%)
容器包装	0.8	69.1	27	80.7	36	43.4
製品	0.3	25.8	6	16.7	23	27.7
漁具	0.1	5.2	1	2.6	24	28.9
合計	1.2	100.0	34	100.0	83	100.0

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小四あったものは、個数の計測はしていない。

	分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
容器包装	飲料用ボトル	0.50	19	20
容器包装	その他プラボトル類	0.25	7	4
容器包装	容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	0.02	1	5
容器包装	ポリ袋	0.03	0	7
漁具	漁網、ロープ	0.05	1	19
漁具	ブイ	0.00	0	2
漁具	発泡スチロールブイ	0.00	0	0
漁具	その他漁具	0.01	0	3
製品	カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.00	0	0
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	0.30	6	23
	合計	1.2	34	83

注) 重量 (kg) の 0.00 は 0.01 kg未満を示す。容量 (L) の 0 は 1L 未満を示す。

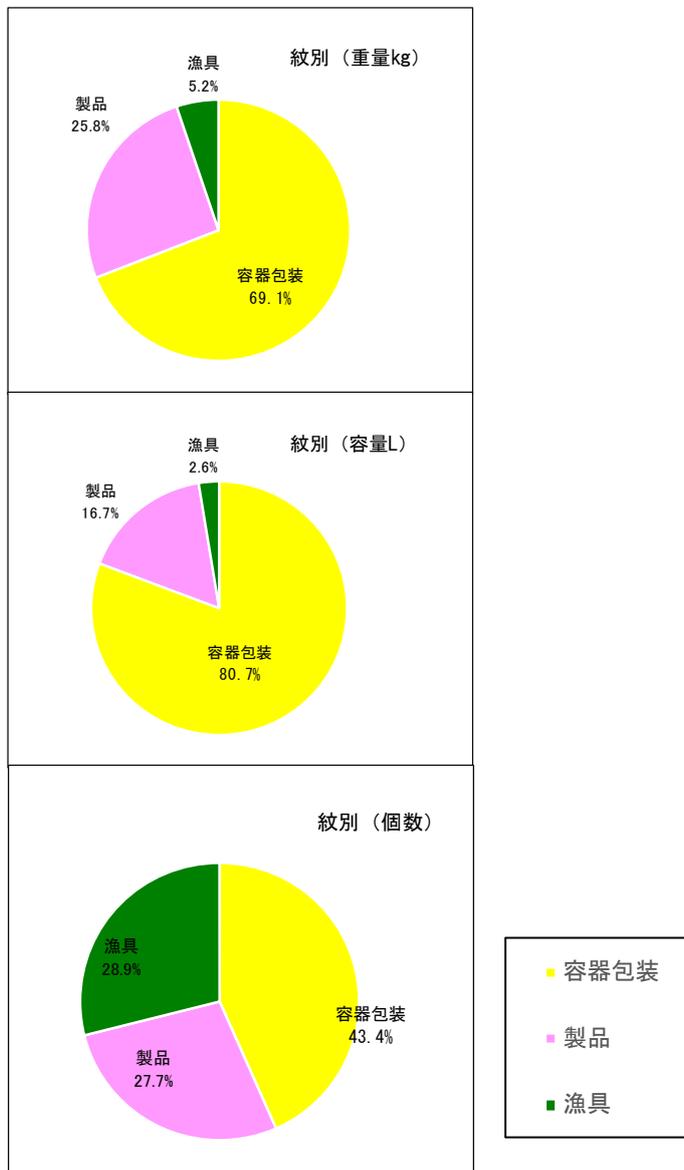


図 2.2-3 プラスチックの容器包装等の組成

2.2.2 北海道岩内町雷電海岸

北海道岩内町の雷電海岸は、海岸線長約 400m の礫浜で、対馬海流下流に位置する開放性の海岸である。本調査以外で清掃は行われていない。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 249.7kg、容量 1,202L、個数 268 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 81.0%、71.1%、個数では人工物が 90.7% と多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は流木、灌木で、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量ではゴムが 59.4%、容量、個数では、プラスチックがそれぞれ 65.6%、81.1% と最も多かった。ゴムのうち、重量を多く占めたのは、タイヤ (2 個で 27.9kg) であった。

プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、容器包装がそれぞれ 51.1%、58.1%、80.7% と多かった。重量、容量、個数の割合が多かった容器包装は、飲料用ボトル (3.8kg、103L、81 個) であった。



図 2.2-4 調査枠の回収後の状況

表 2.2-5 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	47.4	347	243
自然物	202.3	855	25
合計	249.7	1,202	268

※1 各値と合計値は、四捨五入して表示した。このため、表示された各値を合計しても、必ずしも合計値と一致しない。

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	9.6	228	197
天然繊維・革	0.0	0	0
ガラス・陶器	1.2	2	3
金属	6.1	66	28
紙・段ボール	0.3	6	7
ゴム	28.2	42	3
木・木材系	1.7	3	4
電化製品・電気機器	0.3	1	1
その他	0.0	0	0
人工物合計	47.4	347	243

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

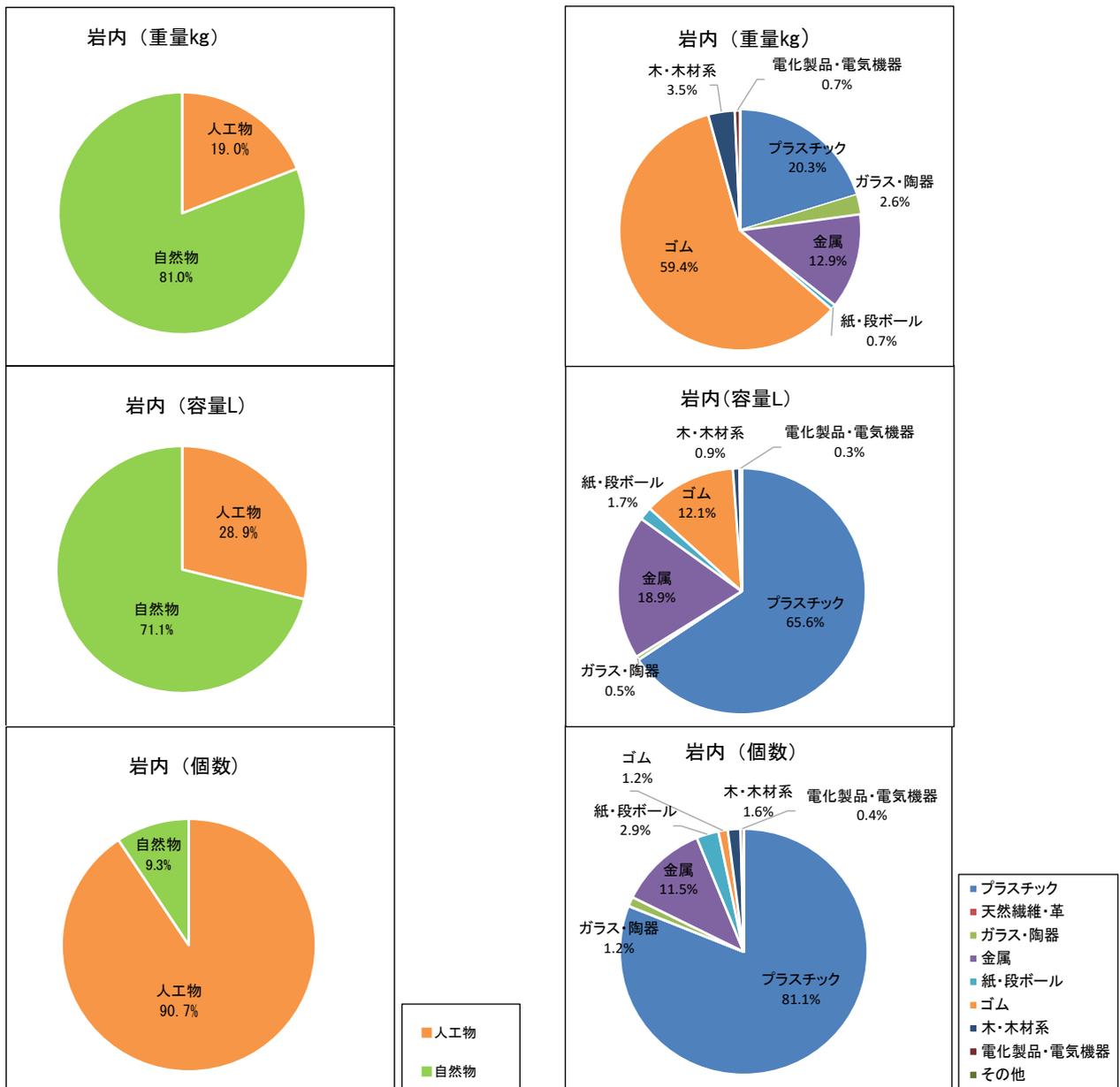


図 2.2-5 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-6 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数(個)	個数(%)
容器包装	4.9	51.1	132	58.1	159	80.7
製品	3.4	35.5	82	35.8	24	12.2
漁具	1.3	13.4	14	6.1	14	7.1
合計	9.6	100.0	228	100.0	197	100.0

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは、個数の計測はしていない。

分類		重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
容器包装	飲料用ボトル	3.81	103	81
容器包装	その他プラボトル類	0.67	8	10
容器包装	容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	0.18	14	45
容器包装	ポリ袋	0.25	7	23
漁具	漁網、ロープ	1.13	12	11
漁具	ブイ	0.07	1	1
漁具	発泡スチロールブイ	0.00	0	0
漁具	その他漁具	0.09	2	2
製品	カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.00	0	0
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	3.41	82	24
合計		9.6	228	197

注) 重量 (kg) の 0.00 は 0.01 kg未満を示す。容量 (L) の 0 は 1L 未満を示す。

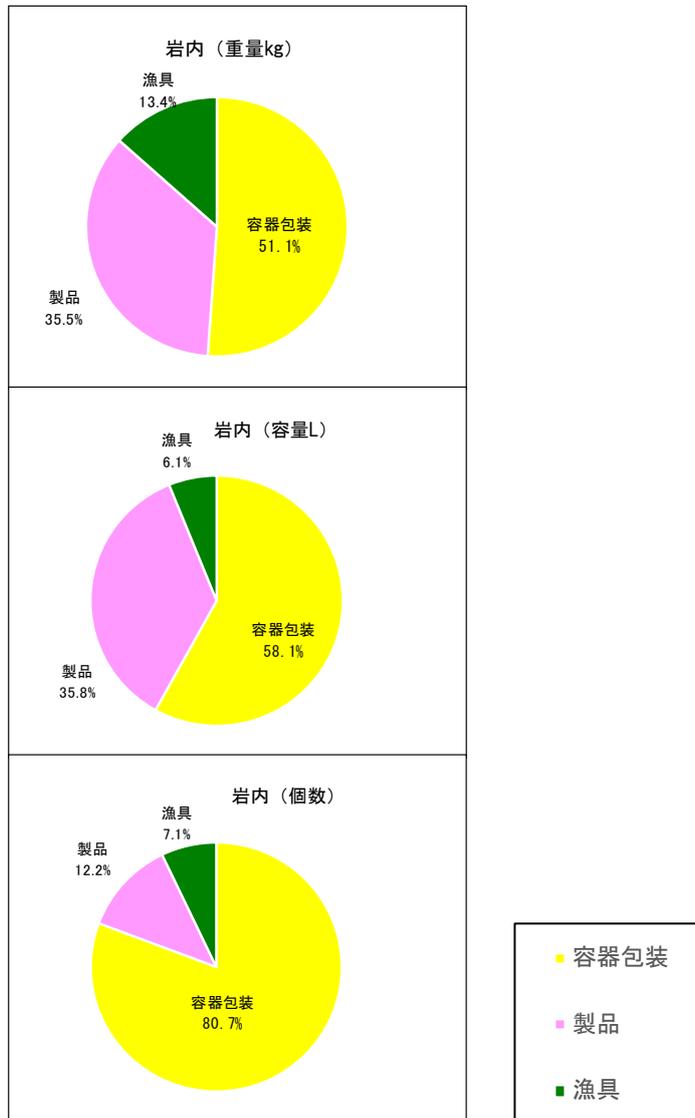


図 2.2-6 プラスチックの容器包装等の組成

2.2.3 青森県深浦町風合瀬海岸

青森県深浦町の風合瀬海岸は、海岸線長約 150m の砂浜で、対馬海流下流に位置し、対馬暖流の影響を受ける開放性の海岸である。清掃は行われるが不定期である。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 1,079.9kg、容量 4,929L、個数 1,910 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量ともに、自然物がそれぞれ 94.0%、91.2% と多く、個数では人工物が 72.1% と多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は流木、灌木で、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにプラスチックが多く、それぞれ 44.3%、50.4%、83.0% であった。重量、容量では、木・木材系の占める割合も多かった。

プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量ともに、製品がそれぞれ 61.2%、49.1% と多かった。個数は、容器包装が 41.2% と多かったが、製品、漁具も同程度に多かった。重量、容量の割合が多かった製品は、その他プラスチック (17.6kg、107L) で、個数の割合が多かった容器包装は飲料用ボトル (437 個) であった。



図 2.2-7 調査枠の回収前・回収後の状況

表 2.2-7 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	65.2	432	1,377
自然物	1,014.7	4,497	533
合計	1,079.9	4,929	1,910

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	28.9	217	1,143
天然繊維・革	0.0	0	0
ガラス・陶器	7.4	15	87
金属	0.7	3	27
紙・段ボール	0.0	0	0
ゴム	2.5	17	26
木・木材系	25.8	180	94
電化製品・電気機器	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	65.2	432	1,377

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

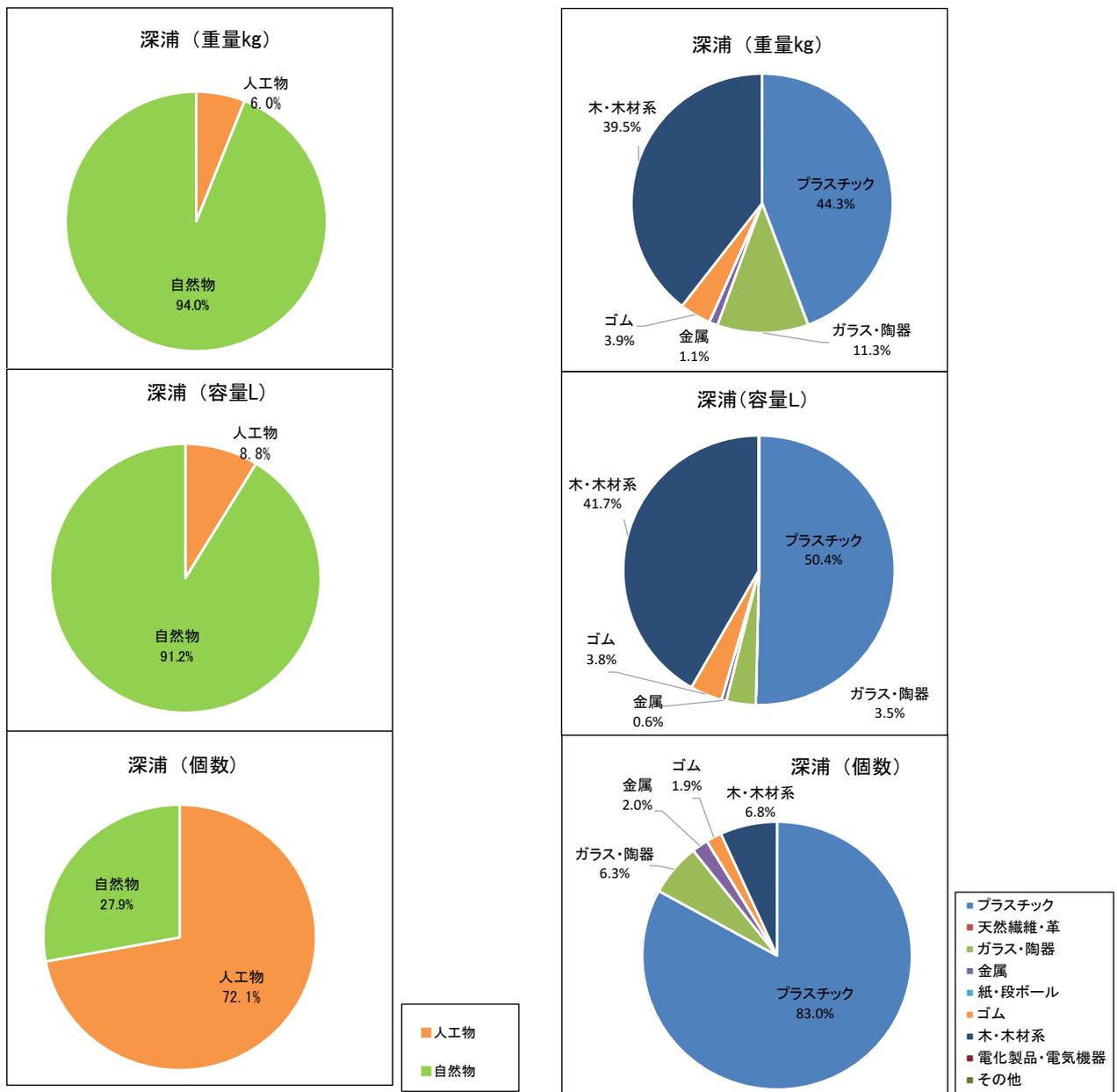


図 2.2-8 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-8 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数(個)	個数(%)
容器包装	2.6	9.0	45	20.5	471	41.2
製品	17.7	61.2	107	49.1	255	22.3
漁具	8.6	29.8	66	30.4	417	36.5
合計	28.9	100.0	217	100.0	1143	100.0

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは、個数の計測はしていない。

	分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
容器包装	飲料用ボトル	2.09	33	437
容器包装	その他プラボトル類	0.42	9	16
容器包装	容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	0.03	1	7
容器包装	ポリ袋	0.05	1	11
漁具	漁網、ロープ	6.52	43	289
漁具	ブイ	1.25	5	62
漁具	発泡スチロールブイ	0.21	13	7
漁具	その他漁具	0.63	5	59
製品	カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.06	0	72
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	17.60	107	183
	合計	28.9	217	1143

注) 重量 (kg) の 0.00 は 0.01 kg未満を示す。容量 (L) の 0 は 1L 未満を示す。

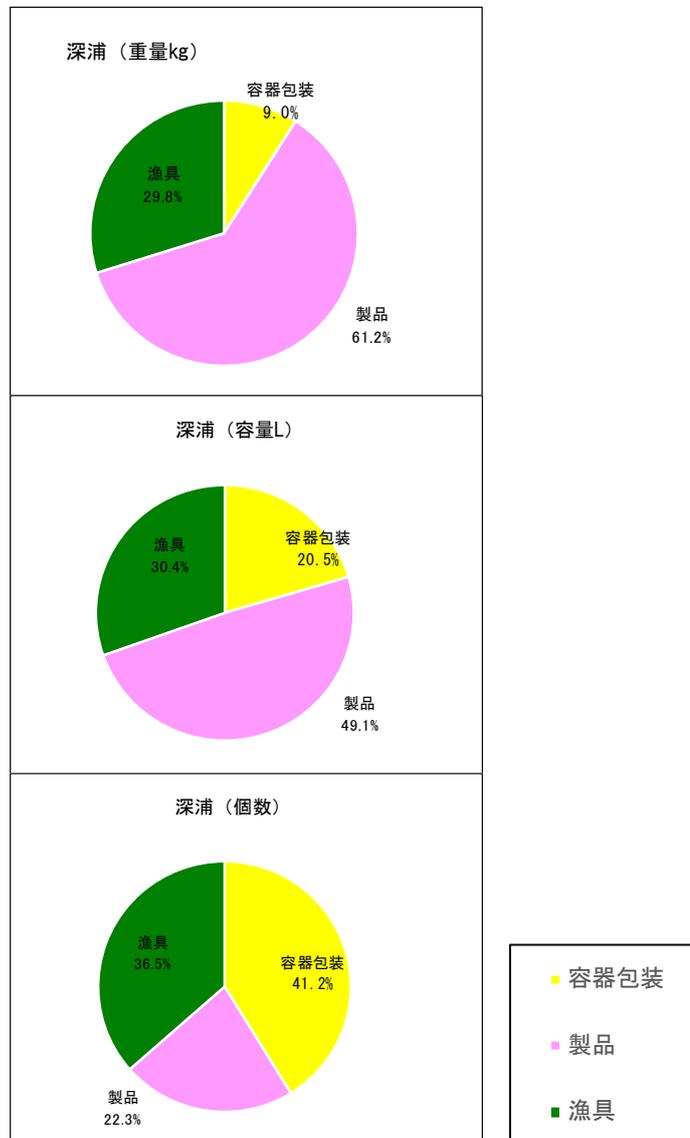


図 2.2-9 プラスチックの容器包装等の組成

2.2.4 福島県いわき市いわきサンマリーナ南側

福島県いわき市のいわきサンマリーナ南側は、海岸線長約 130mの砂浜で、黒潮の下流に位置し、黒潮の影響を受ける開放性の海岸である。本調査以外で清掃は行われていない。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 87.8kg、容量 1,270L、個数 562 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量ともに、自然物がそれぞれ 63.6%、58.3%と多く、個数では人工物が 96.6%と多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は主に灌木で、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量では木・木材系が多く、それぞれ 57.9%、62.3%であった。重量、容量では、プラスチックの占める割合も多かった。個数ではプラスチックが 91.5%と多かった。重量、容量の割合が多かった木・木材系は木材 (18.5kg、330L) であった。

プラスチックの容器包装等の組成は、重量は製品が 55.5%と多かった。容量、個数ともに、容器包装がそれぞれ 48.4%、70.4%と多かった。重量の割合が多かった製品はその他のプラスチック (6.5kg) で、容量では飲料用ボトル (59L)、個数では容器類 (208 個) であった。

過年度調査 (H27 年度) で回収された漂着ごみは、重量 167.1kg、容量 2,700L、個数 498 個であった。2 分類別の組成は、重量、容量、個数ともに、人工物がそれぞれ 65.1%、56.0%、99.6%と多かった。

本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、2 分類では、本年度調査では自然物が多かったが、過年度調査では人工物が多かった。

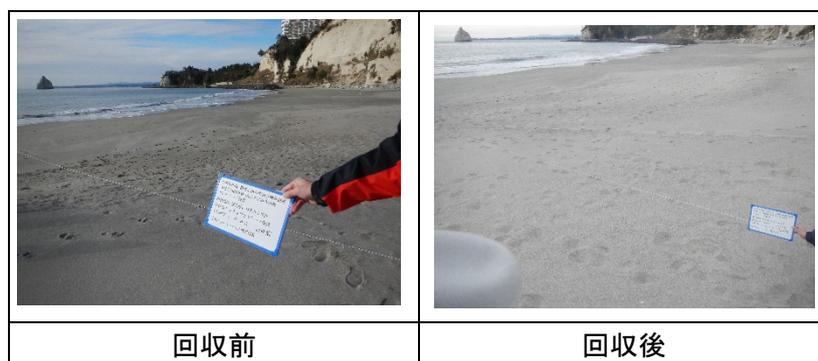


図 2.2-10 調査枠の回収前・回収後の状況

表 2.2-9 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	32.0	530	542
自然物	55.9	740	19
合計	87.8	1,270	561

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	11.6	178	496
天然繊維・革	0.0	0	2
ガラス・陶器	0.5	2	4
金属	0.4	10	10
紙・段ボール	0.1	0	4
ゴム	0.7	10	10
木・木材系	18.5	330	16
電化製品・電気機器	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	31.9	530	542

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

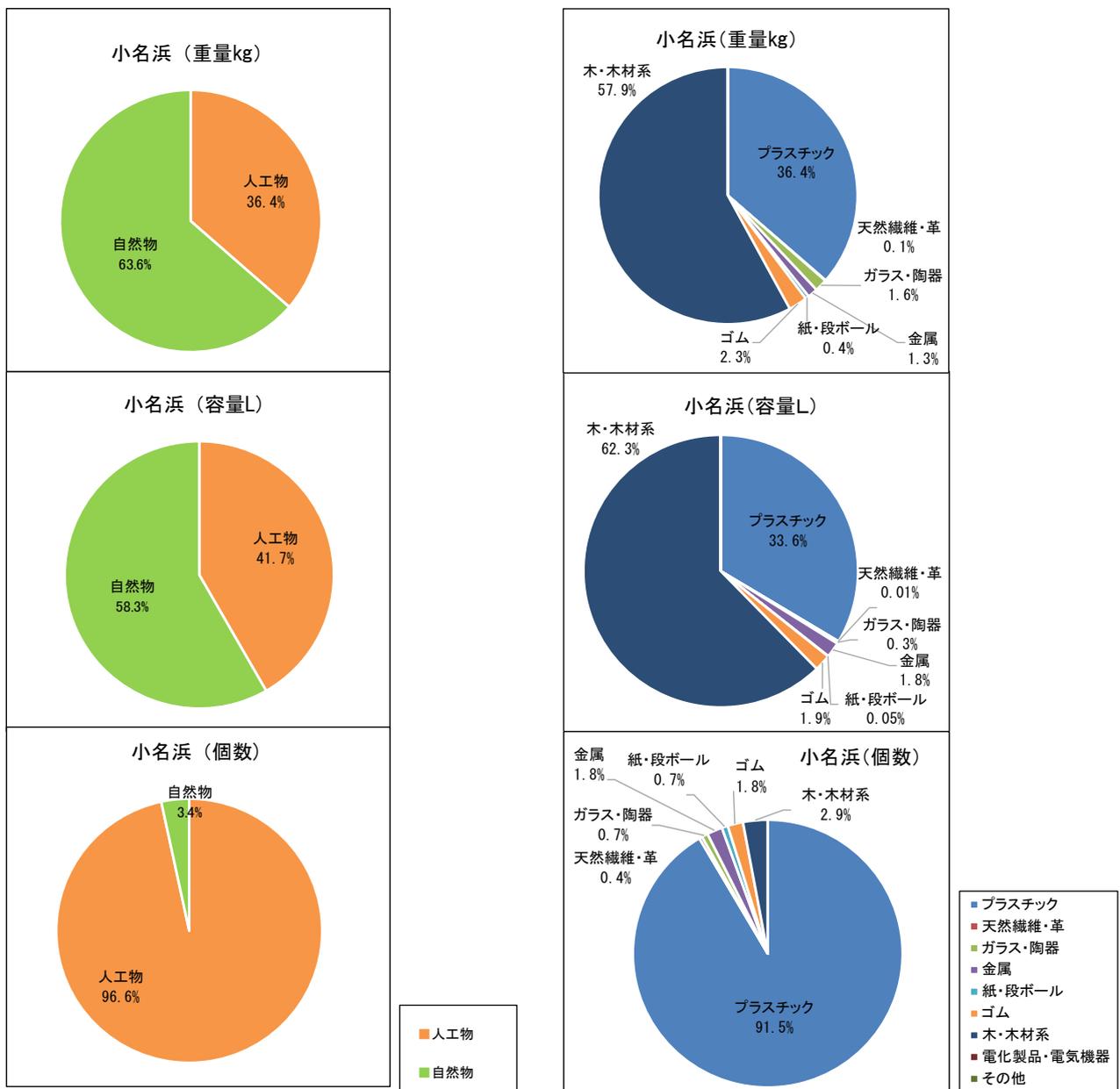


図 2.2-11 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-10 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数	個数(%)
容器包装	2.3	19.8	86	48.4	350	70.4
製品	6.5	55.5	64	35.7	74	14.9
漁具	2.9	24.7	28	15.9	72	14.5
合計	11.6	100.0	178	100.0	497	99.8

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小四角あったものは、個数の計測はしていない。

	分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
容器包装	飲料用ボトル	1.74	59	84
容器包装	その他プラボトル類	0.20	6	3
容器包装	容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	0.18	13	208
容器包装	ポリ袋	0.18	8	55
漁具	漁網、ロープ	2.75	23	57
漁具	ブイ	0.08	5	5
漁具	発泡スチロールブイ	0.00	0	0
漁具	その他漁具	0.04	0	10
製品	カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.01	0	11
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	6.45	63	63
	合計	11.6	178	496

注) 重量 (kg) の 0.00 は 0.01 kg未満を示す。容量 (L) の 0 は 1L 未満を示す。

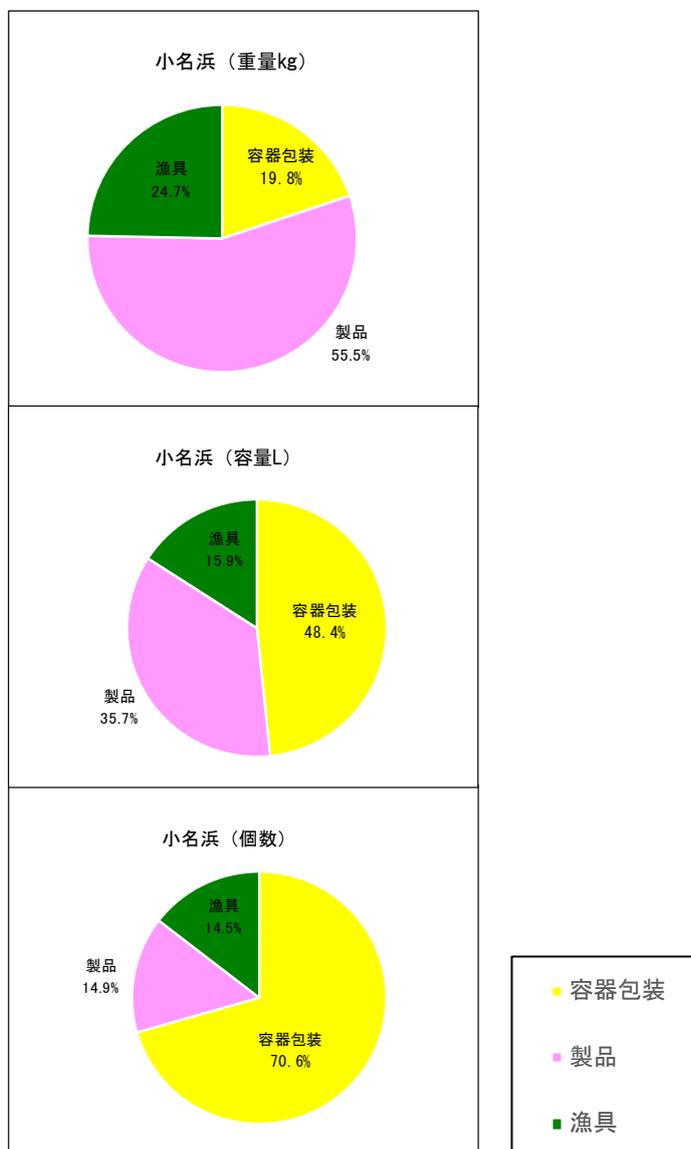


図 2.2-12 プラスチックの容器包装等の組成

表 2.2-11 過年度調査 (H27 年度) 結果

過年度調査 (H27 年度 : 左表) と本年度調査 (右表 : 再掲)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	108.8	1513	496	人工物	32.0	530	542
自然物	58.3	1,187	2	自然物	55.9	740	19
合計	167.1	2,700	498	合計	87.8	1,270	561

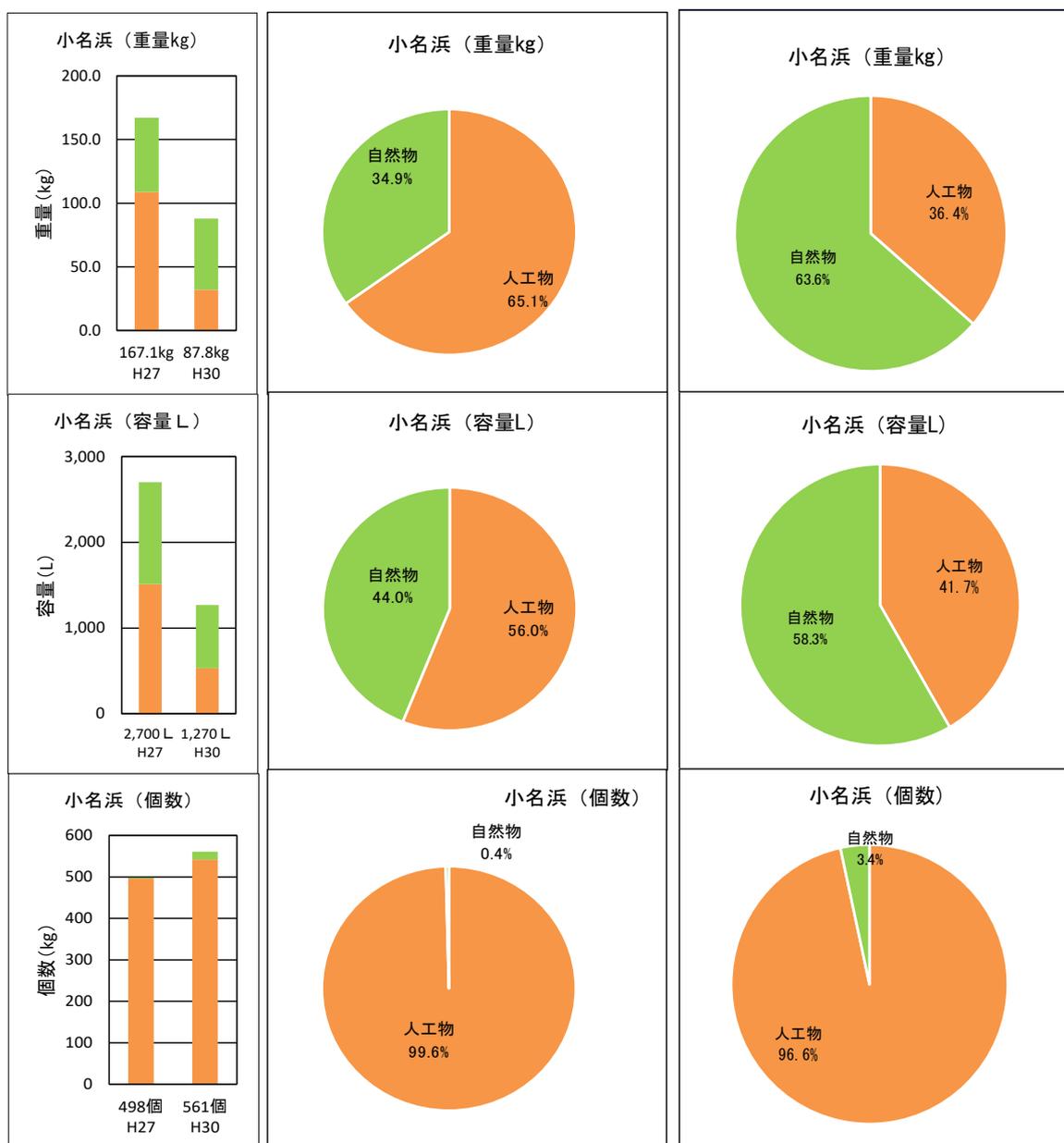


図 2.2-13 過年度調査 (H27 年度) 結果

左図 (棒グラフ) : 過年度調査 (H27 年度 : 左側) と本年度調査 (右側)
 中図と右図 (円グラフ) : 過年度調査 (H27 年度 : 左図) と本年度調査 (右図 : 再掲)



2.2.5 千葉県富津市布引海岸

千葉県富津市の布引海岸は、海岸線長約 2.3km の砂浜である。黒潮の下流に位置し、海水浴場として使用されている開放性海岸である。大都市圏の影響の他、黒潮の影響を受ける可能性がある海岸で、海水浴シーズンを除き、定期的な清掃は行われていない。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 775.9kg、容量 5,127L、個数 988 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量ともに、自然物がそれぞれ 79.9%、80.1% と多く、個数では人工物が 90.1% と多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は流木、灌木で、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにプラスチックが多く、それぞれ 81.2%、66.9%、81.7% であった。プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量ともに、漁具がそれぞれ 77.8%、60.9% と多かった。個数は、容器包装が 49.0% と多かった。重量、容量の割合が多かった漁具は漁網、ロープ (97.4kg、410.0L) であった。個数の割合が多かったのは飲料用ボトル (222 個) であった。

過年度調査 (H27 年度) で回収された漂着ごみは、重量 163.7kg、容量 1,112L、個数 1,038 個であった。2 分類別の組成は、人工物は、重量では 56.0%、容量では自然物が 51.1%、個数では、人工物が 84.5% と多かった。

本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、2 分類では、本年度調査では自然物が多かったが、過年度調査では人工物が多かった。



図 2.2-14 調査枠の回収前・回収後の状況

表 2.2-12 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	156.3	1,022	890
自然物	619.6	4,105	98
合計	775.9	5,127	988

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	126.8	684	727
天然繊維・革	0.0	0	0
ガラス・陶器	4.3	8	33
金属	2.2	6	55
紙・段ボール	0.3	3	3
ゴム	7.0	72	29
木・木材系	15.6	250	43
電化製品・電気機器	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	156.3	1,022	890

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

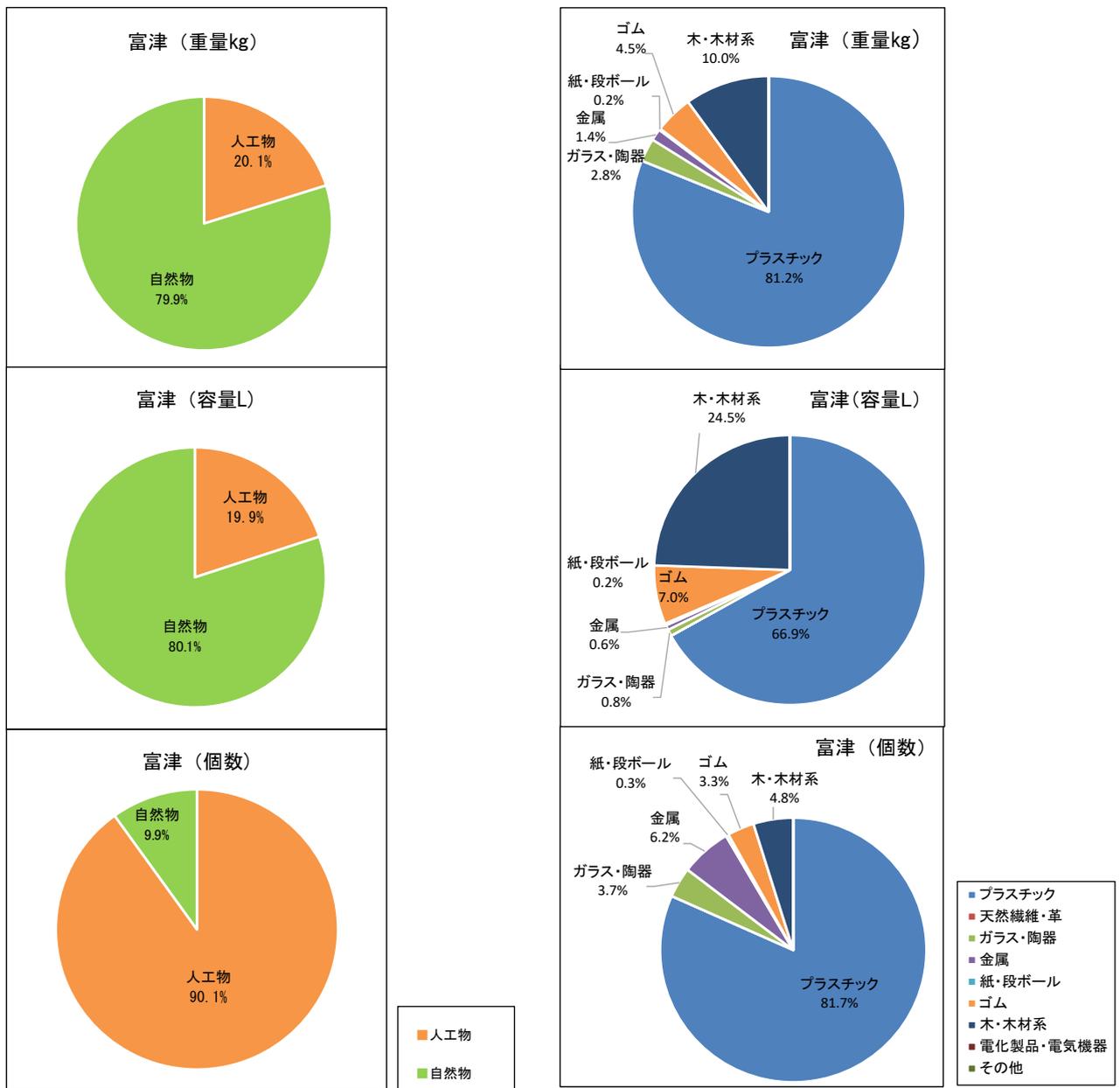


図 2.2-15 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-13 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数(個)	個数(%)
容器包装	12.6	9.9	172	25.2	356	49.0
製品	15.5	12.2	95	14.0	169	23.2
漁具	98.7	77.8	417	60.9	202	27.8
合計	126.8	100.0	684	100.0	727	100.0

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは、個数の計測はしていない。

	分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
容器包装	飲料用ボトル	4.65	44	222
容器包装	その他プラボトル類	5.50	110	35
容器包装	容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	0.77	7	39
容器包装	ポリ袋	1.66	11	60
漁具	漁網、ロープ	97.40	410	131
漁具	ブイ	0.36	1	15
漁具	発泡スチロールブイ	0.66	3	4
漁具	その他漁具	0.32	3	19
製品	カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.04	0	48
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	15.48	95	154
	合計	126.8	684	727

注) 重量 (kg) の 0.00 は 0.01 kg未満を示す。容量 (L) の 0 は 1L未満を示す。

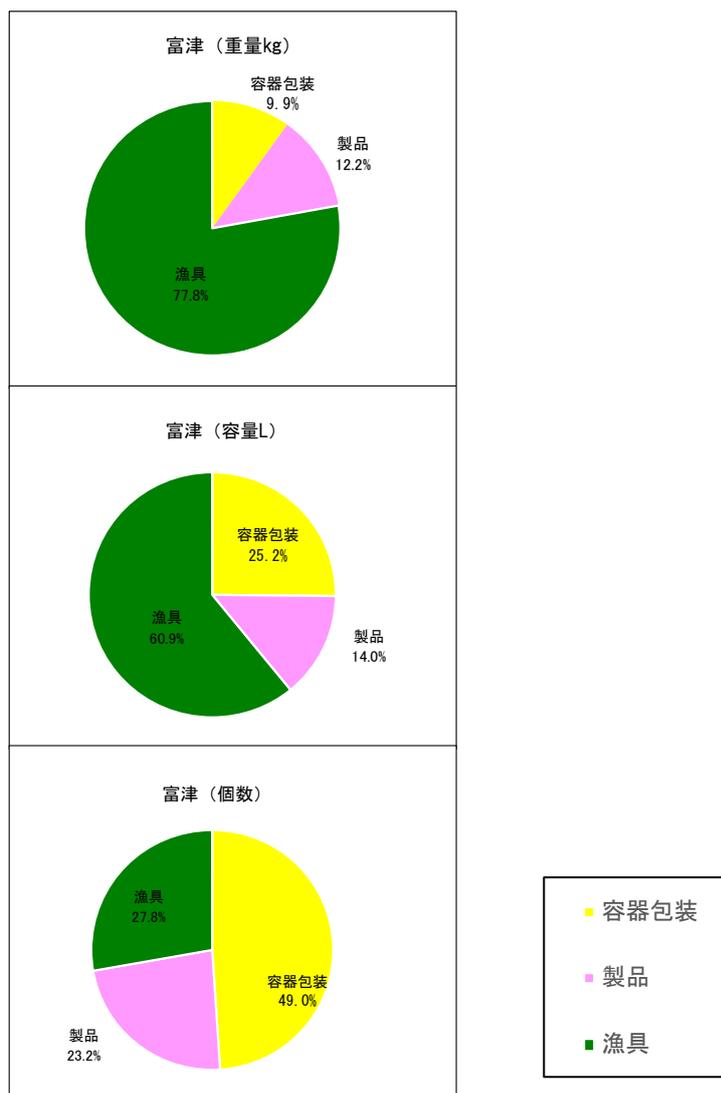


図 2.2-16 プラスチックの容器包装等の組成

表 2.2-14 過年度調査 (H27 年度) 結果

過年度調査 (H27 年度 : 左表) と本年度調査 (右表 : 再掲)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	91.7	544	877	人工物	156.3	1,022	890
自然物	72.0	568	161	自然物	619.6	4,105	98
合計	163.7	1,112	1,038	合計	775.9	5,127	988

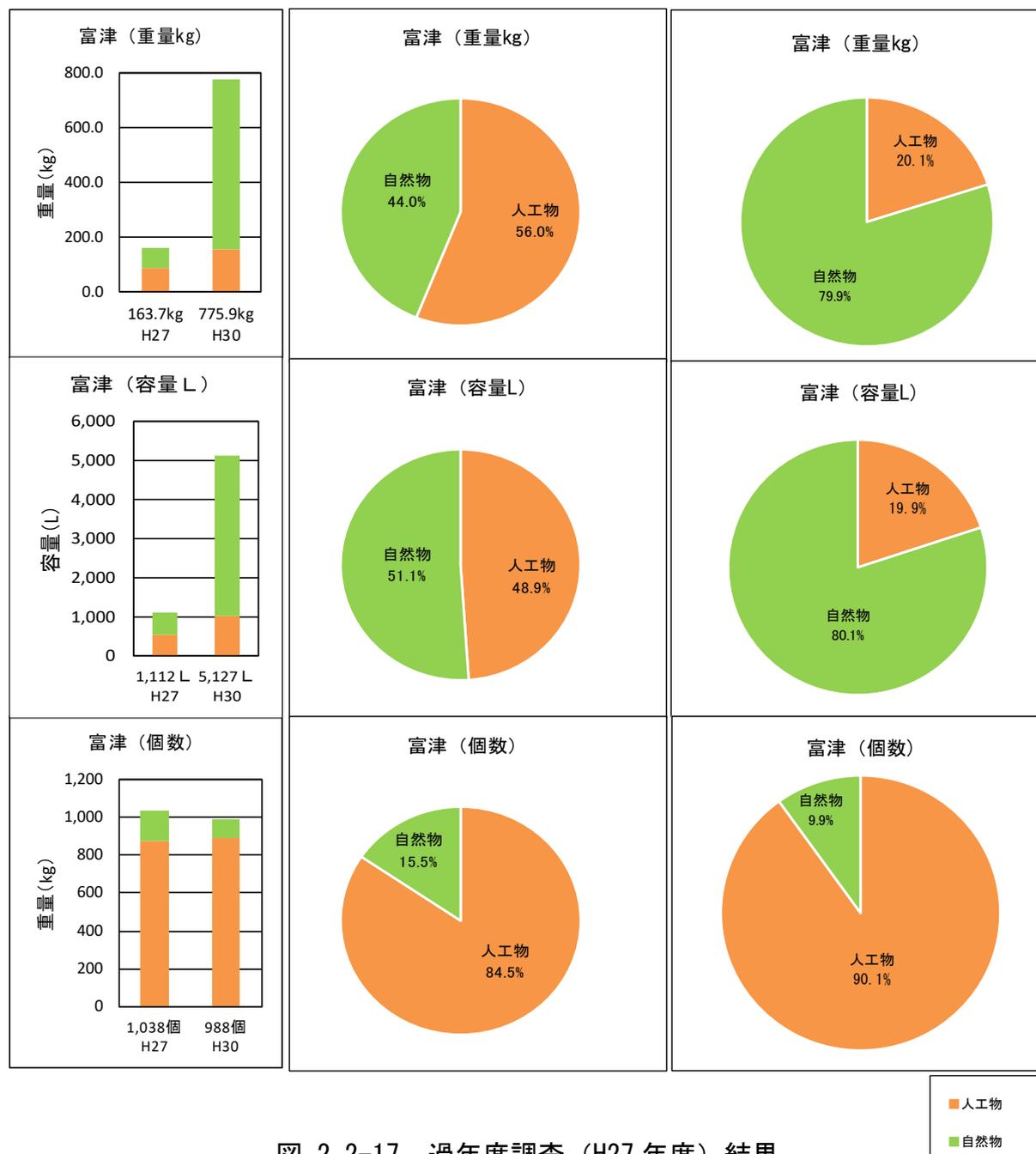


図 2.2-17 過年度調査 (H27 年度) 結果

左図 (棒グラフ) : 過年度調査 (H27 年度 : 左側) と本年度調査 (右側)
 中図と右図 (円グラフ) : 過年度調査 (H27 年度 : 左図) と本年度調査 (右図 : 再掲)

2.2.6 東京都八丈町底土海水浴場

東京都八丈町の底土海水浴場は、海岸線長約 220m の磯浜で、黒潮の中流に位置し、黒潮の影響を受ける開放性の海岸である。近傍に大きな河川はなく、黒潮上流域で生じたごみが漂着する海岸である。本調査以外にごみの回収が年に 1 回程度実施されている。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 66.0kg、容量 601L、個数 525 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量ともに、人工物がそれぞれ 73.9%、88.0% と多く、個数では人工物が 99.8% と多かった。重量の割合が多かった漁具はロープ・ひも (26.5kg) で、容量では発泡スチロール製フロート・ブイ (250L) であった。個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにプラスチックが多く、それぞれ 95.0%、96.9%、90.8% であった。プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量ともに、漁具がそれぞれ 72.6%、66.3% と多かった。個数は容器包装が 55.0% と多かった。重量の割合が多かった漁具は漁網、ロープ (26.5kg) で、容量の割合が多かった漁具は、発泡スチロールブイ (250L) であった。個数の割合が多かった容器包装は飲料用ボトル (151 個) であった。

過年度調査 (H29 年度) で回収された漂着ごみは、重量 49.5kg、容量 256L、個数 233 個であった。本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、重量、個数ともに人工物が増加していた。

2 分類別の組成は、重量、容量、個数ともに、人工物がそれぞれ 73.7%、89.9%、98.3% と多かった。本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、2 分類では、本年度調査では漁具が多かったが、過年度調査では人工物が多かった。

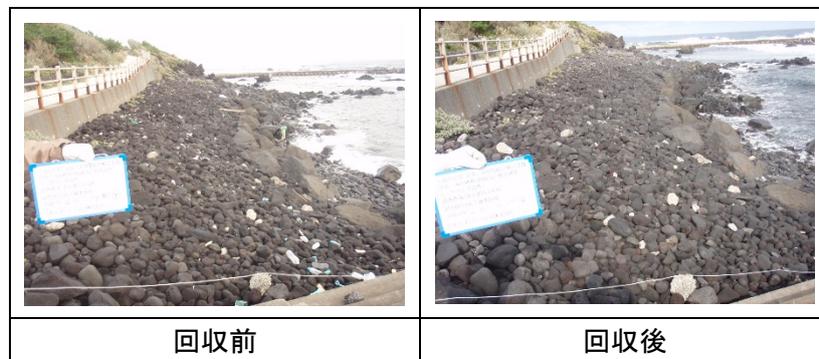


図 2.2-18 調査枠の回収前・回収後の状況

表 2.2-15 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	48.8	529	524
自然物	17.2	72	1
合計	66.0	601	525

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	46.3	513	476
天然繊維・革	0.0	0	0
ガラス・陶器	0.6	1	16
金属	0.3	3	10
紙・段ボール	0.1	2	5
ゴム	1.5	10	17
木・木材系	0.0	0	0
電化製品・電気機器	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	48.8	529	524

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

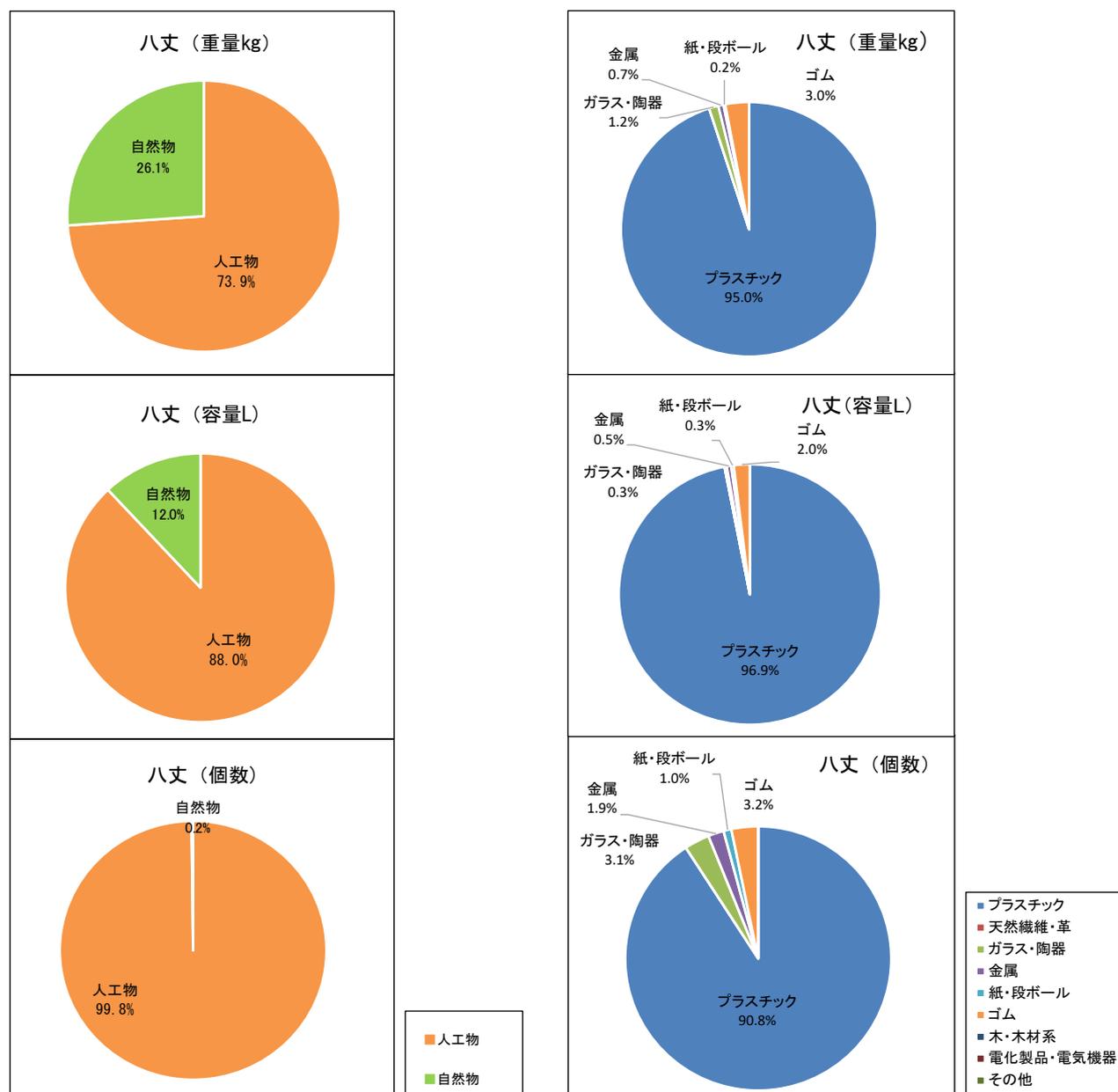


図 2.2-19 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-16 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数(個)	個数(%)
容器包装	3.4	7.3	65	12.7	262	55.0
製品	9.3	20.1	108	21.0	57	12.0
漁具	33.6	72.6	340	66.3	157	33.0
合計	46.3	100.0	513	100.0	476	100.0

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは、個数の計測はしていない。

	分類	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	飲料用ボトル	2.80	59	151
容器包装	その他プラボトル類	0.42	3	6
容器包装	容器類(調味料容器、トレイ、カップ等)	0.11	3	89
容器包装	ポリ袋	0.04	0	16
漁具	漁網、ロープ	26.47	80	43
漁具	ブイ	1.06	6	41
漁具	発泡スチロールブイ	5.44	250	4
漁具	その他漁具	0.69	4	69
製品	カトラリー(ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.01	0	10
製品	その他プラスチック(ライター、注射器、発泡スチロール片等)	9.31	108	47
	合計	46.3	513	476

注) 重量(kg)の0.00は0.01kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。

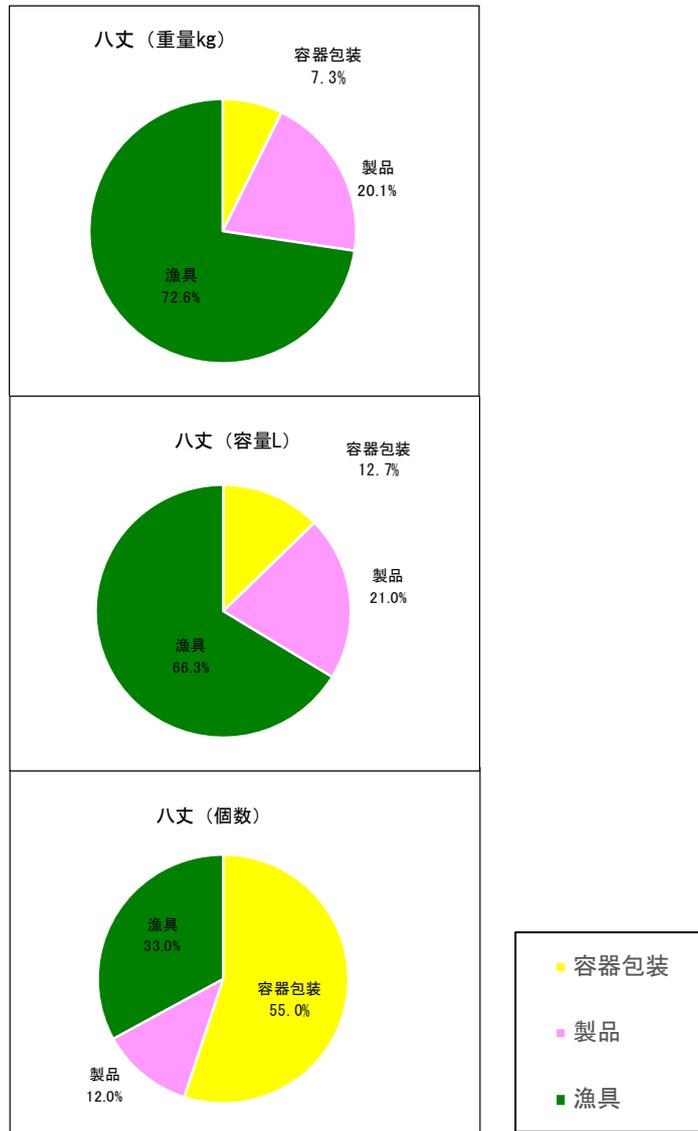


図 2.2-20 プラスチックの容器包装等の組成

表 2.2-17 過年度調査 (H29 年度) 結果

過年度調査 (H29 年度 : 左表) と本年度調査 (右表 : 再掲)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数	項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	36.5	231	229	人工物	48.8	529	524
自然物	13.0	26	4	自然物	17.2	72	1
合計	49.5	256	233	合計	66.0	601	525

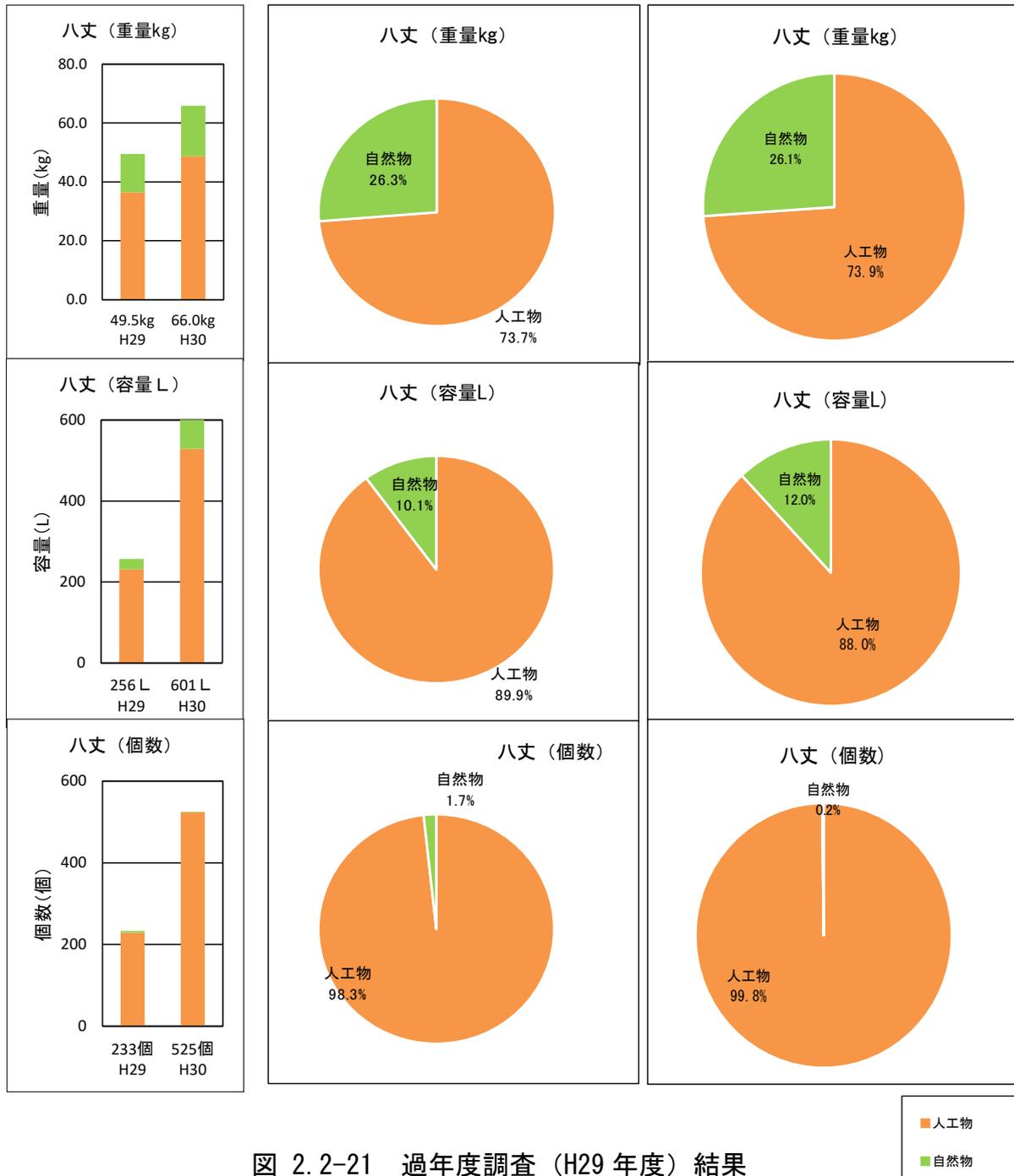


図 2.2-21 過年度調査 (H29 年度) 結果

左図 (棒グラフ) : 過年度調査 (H29 年度 : 左側) と本年度調査 (右側)
 中図と右図 (円グラフ) : 過年度調査 (H29 年度 : 中図) と本年度調査 (右図 : 再掲)

2.2.7 大阪府岬町淡輪付近の海岸

大阪府岬町の淡輪付近の海岸は、海岸線長約 100m の磯浜で、瀬戸内海に位置し、本州、四国にはさまれた内海である。大都市圏の影響によるごみが多い。清掃もあまりなく、人の立ち入りがほとんどない。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 41.8kg、容量 420L、個数 455 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量、個数ともに、人工物がそれぞれ 67.3%、64.3%、98.0% と多かった。重量、容量の割合が多かった人工物は木材で、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量では木・木材系が多く、それぞれ 68.2%、55.5% であった。重量、容量では、プラスチックの占める割合も多かった。個数ではプラスチックが 84.8% と多かった。重量、容量の割合が多かった木・木材系は木材 (19.2kg、150L) であった。

プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量ともに、製品がそれぞれ 65.0%、45.2% と多かった。容量では容器包装も 45.1% と多かった。個数は容器包装が 61.9% と多かった。重量、容量ともに割合が多かった製品はその他プラスチック (5.1kg、51L) で、個数の割合が多かった容器包装はポリ袋 (104 個) であった。

過年度調査 (H27 年度) で回収された漂着ごみは、重量 128.3kg、容量 508L、個数 359 個であった。2 分類別の組成は、重量、容量ともに、自然物がそれぞれ 77.1%、65.2% と多かった。個数では、人工物が 95.5% と多かった。

本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、2 分類では、本年度調査では人工物が多かったが、過年度調査では自然物が多かった。



図 2.2-22 調査枠の回収前・回収後の状況

表 2.2-18 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	28.1	270	446
自然物	13.7	150	9
合計	41.8	420	455

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	7.8	113	378
天然繊維・革	0.2	1	8
ガラス・陶器	0.3	0	4
金属	0.4	4	19
紙・段ボール	0.1	1	11
ゴム	0.2	1	7
木・木材系	19.2	150	19
電化製品・電気機器	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	28.1	270	446

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

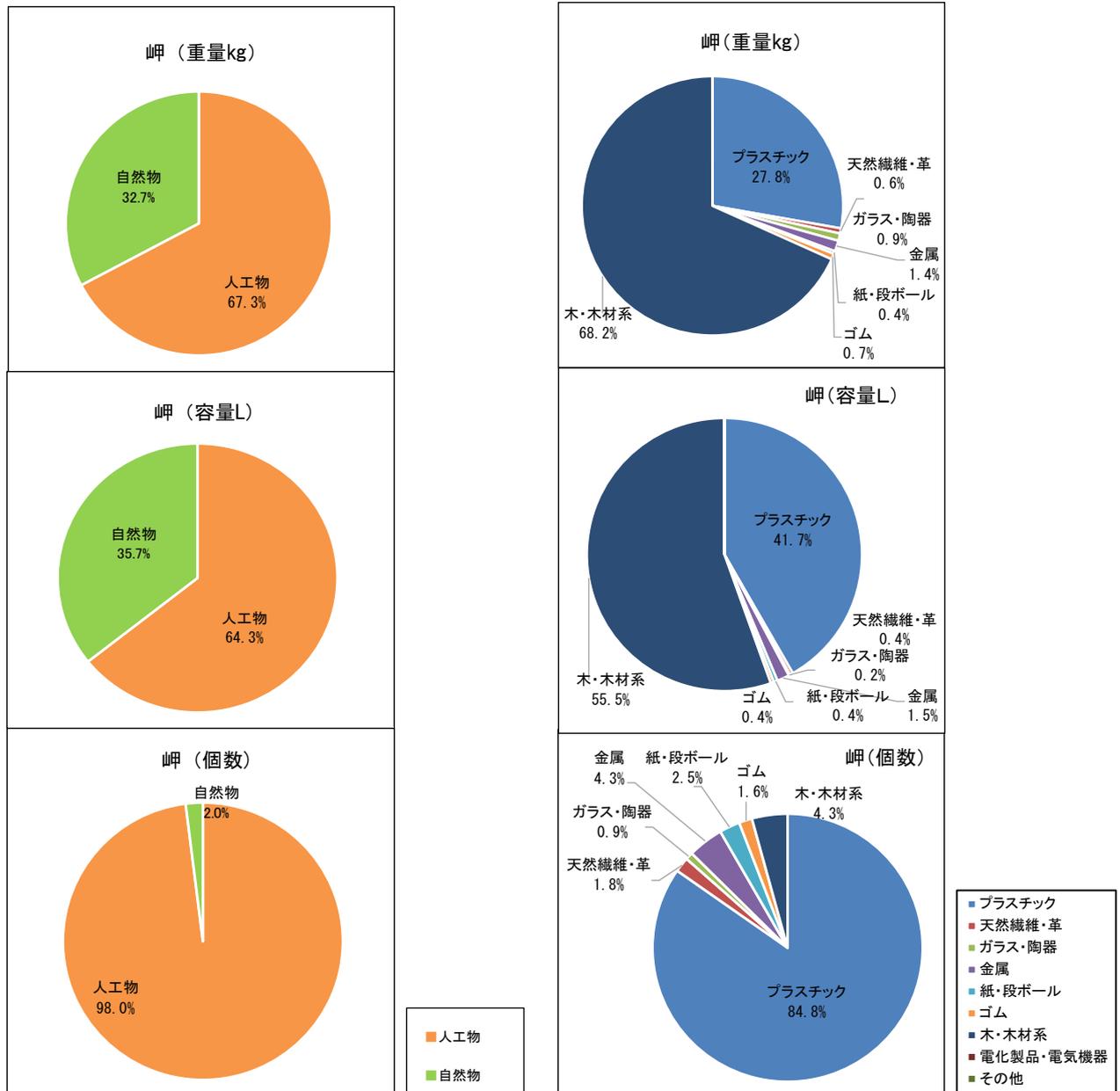


図 2.2-23 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-19 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数(個)	個数(%)
容器包装	2.0	25.0	51	45.1	234	61.9
製品	5.1	65.0	51	45.2	93	24.6
漁具	0.8	10.0	11	9.8	51	13.5
合計	7.8	100.0	113	100.0	378	100.0

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは、個数の計測はしていない。

	分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
容器包装	飲料用ボトル	1.38	31	76
容器包装	その他プラボトル類	0.10	1	7
容器包装	容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	0.22	10	47
容器包装	ポリ袋	0.26	9	104
漁具	漁網、ロープ	0.51	10	25
漁具	ブイ	0.00	0	0
漁具	発泡スチロールブイ	0.00	0	0
漁具	その他漁具	0.27	1	26
製品	カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.02	0	25
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	5.07	51	68
	合計	7.8	113	378

注) 重量 (kg) の 0.00 は 0.01 kg未満を示す。容量 (L) の 0 は 1L 未満を示す。

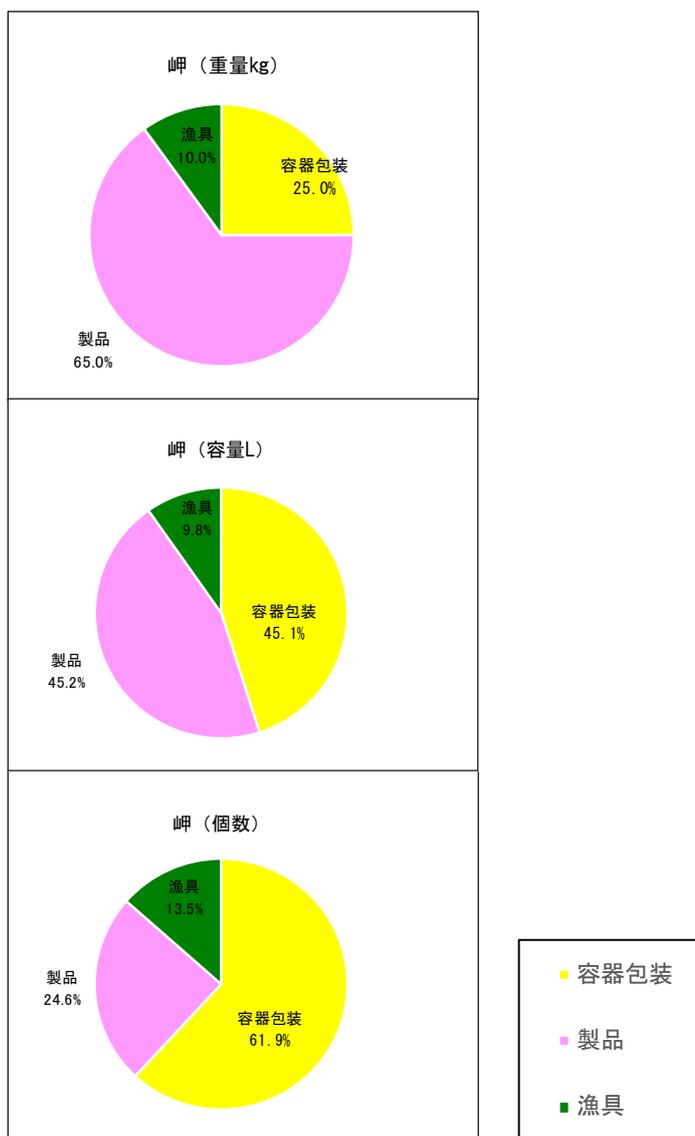


図 2.2-24 プラスチックの容器包装等の組成

表 2.2-20 過年度調査 (H27 年度) 結果

過年度調査 (H27 年度 : 左表) と本年度調査 (右表 : 再掲)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数
人工物	29.4	177	343
自然物	98.9	331	16
合計	128.3	508	359

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	28.1	270	446
自然物	13.7	150	9
合計	41.8	420	455

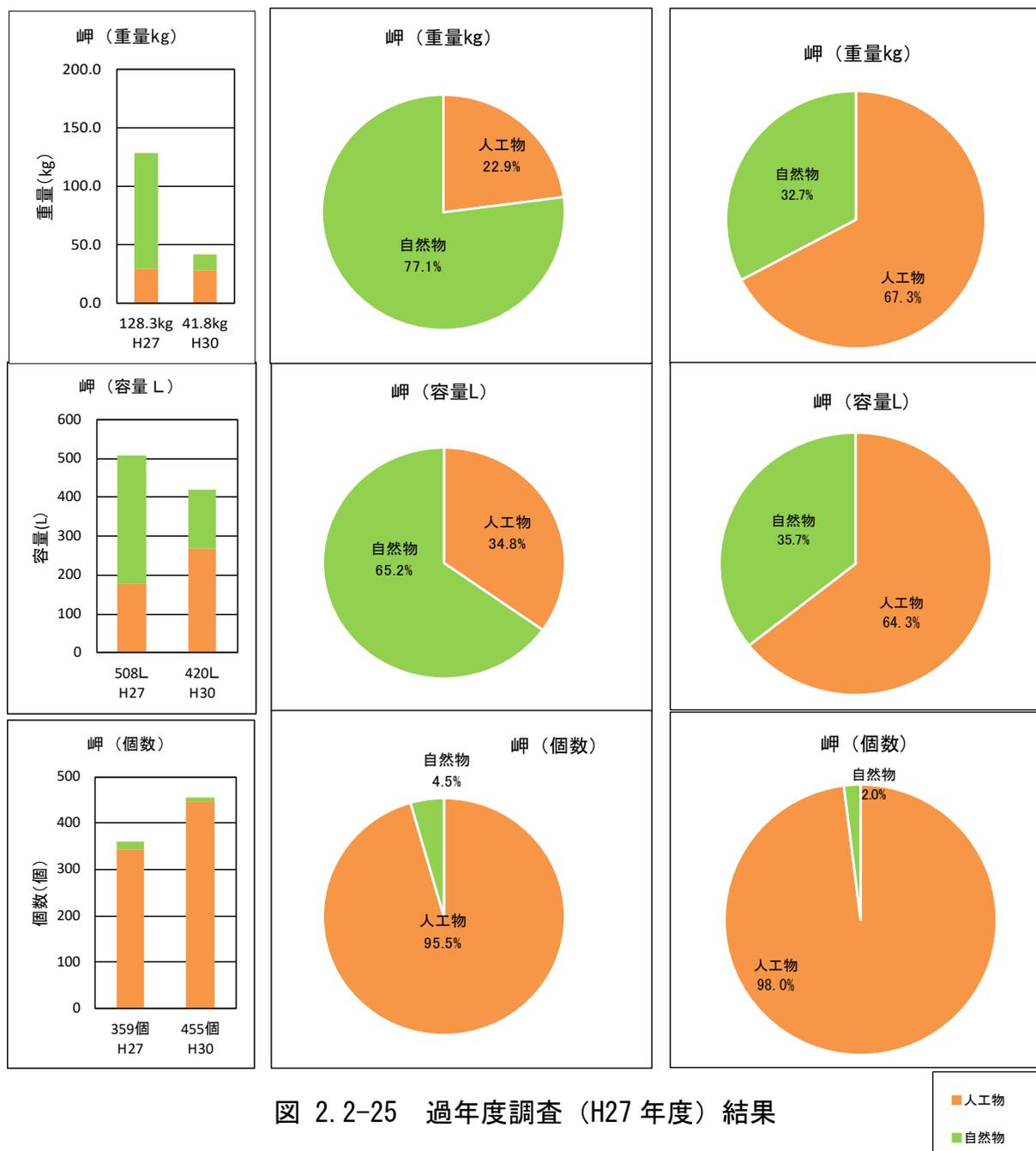


図 2.2-25 過年度調査 (H27 年度) 結果

左図 (棒グラフ) : 過年度調査 (H27 年度 : 左側) と本年度調査 (右側)
 中図と右図 (円グラフ) : 過年度調査 (H27 年度 : 左図) と本年度調査 (右図 : 再掲)

2.2.8 島根県松江市古浦海水浴場

島根県松江市の古浦海水浴場は、海岸線長約 740m の砂浜で、対馬海流の中流に位置し、対馬暖流の影響を受ける開放性の海岸である。本調査以外にごみの回収が年に 1 回程度実施されている。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 658.4kg、容量 2,883L、個数 10,617 個であった。

2 分類別の組成は、重量では自然物 57.6%と多かった。容量、個数では人工物がそれぞれ 68.1%、99.9%と多かった。重量の割合が多かった自然物は流木、灌木で、容量、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにプラスチックが多く、それぞれ 73.3%、91.5%、96.7%であった。重量、容量の割合が多かったプラスチックは漁網、ロープ (77.6kg、463L) で、個数の割合が多かったプラスチックは飲料用ボトル (3,105 個) であった。漁網、ロープの個数 (2,716 個) も多かった。

プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、漁具がそれぞれ 53.3%、38.4%、41.6%と多かった。漁具の中で最も多かったのは漁網、ロープ (77.6kg、463L、2,716 個) であった。

過年度調査 (H29 年度) で回収された漂着ごみは、重量 203.7kg、容量 976L、個数 340 個であった。本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、重量では自然物が増加しており、容量ではいずれの項目も増加しており、個数では人工物と漁具が増加していた。

2 分類別の組成は、重量、容量、個数ともに、人工物がそれぞれ 91.2%、93.9%、95.0%と多かった。本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、2 分類では、本年度調査、過年度調査ともに人工物が多かった。また、人工物では、本年度調査、過年度調査ともにプラスチックが多かった。



図 2.2-26 調査枠の回収前・回収後の状況

表 2.2-21 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	279.3	1,963	10,603
自然物	379.1	920	14
合計	658.4	2,883	10,617

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	205.0	1,797	10,252
天然繊維・革	0.6	10	15
ガラス・陶器	9.4	28	84
金属	1.1	13	29
紙・段ボール	0.0	0	3
ゴム	5.6	41	63
木・木材系	57.8	75	157
電化製品・電気機器	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	279.3	1,963	10,603

注) 重量(kg)の0.0は0.1kg未満を示す。容量(L)の0は、1L未満を示す。個数(個数)の0は出現なしを示す。

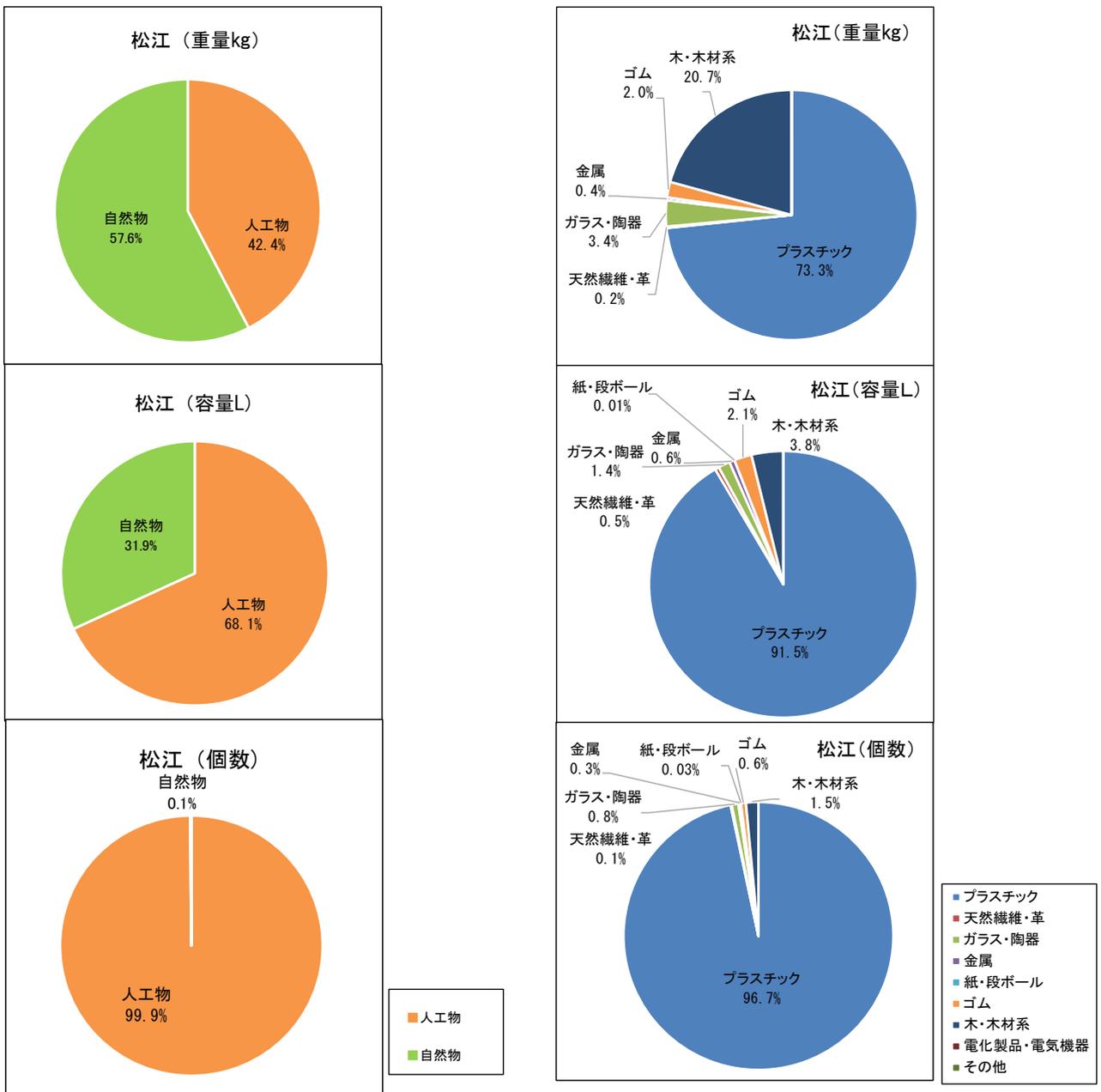


図 2.2-27 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 2.2-22 プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量(kg)	重量(%)	容量(L)	容量(%)	個数(個)	個数(%)
容器包装	35.2	17.2	519	28.9	3,928	38.4
製品	60.2	29.5	588	32.7	2,044	20.0
漁具	109.0	53.3	690	38.4	4,250	41.6
合計	204.4	100.0	1797	100.0	10,222	100.0

※1 発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは、個数の計測はしていない。

	分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
容器包装	飲料用ボトル	18.05	277	3,105
容器包装	その他プラボトル類	13.55	164	198
容器包装	容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	2.08	54	415
容器包装	ポリ袋	1.52	25	210
漁具	漁網、ロープ	77.63	463	2,716
漁具	ブイ	17.41	78	60
漁具	発泡スチロールブイ	1.66	21	39
漁具	その他漁具	12.28	128	1,435
製品	カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.72	15	738
製品	その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	59.50	573	1,306
	合計	204.4	1797	10,222

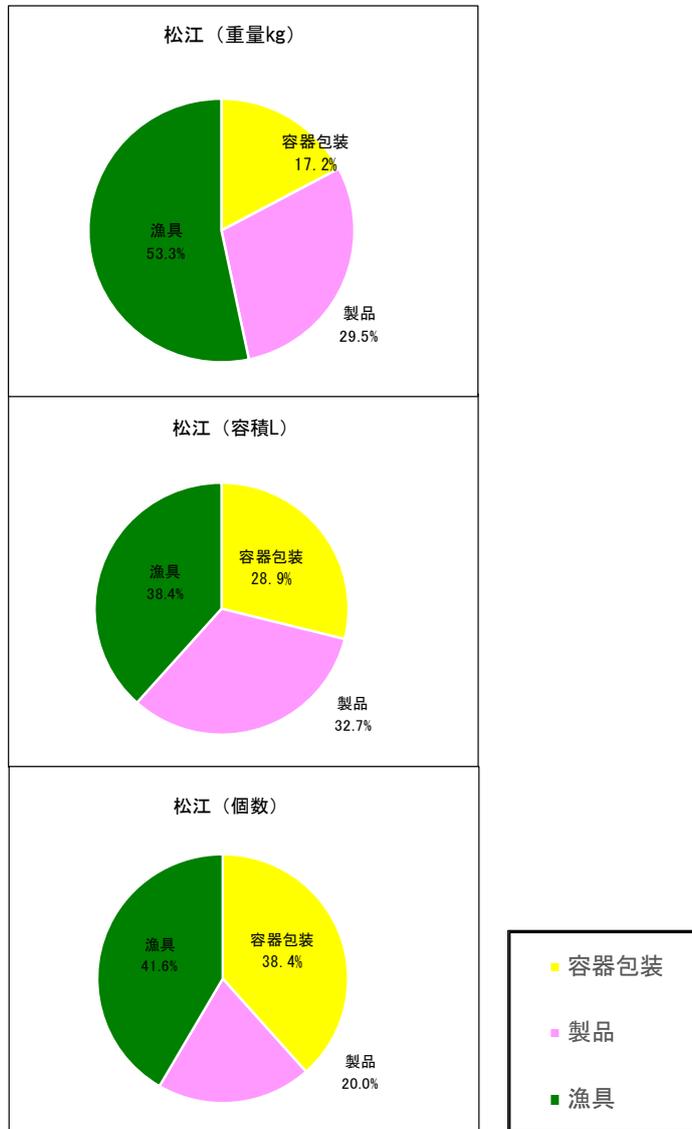


図 2.2-28 プラスチックの容器包装等の組成

表 2.2-23 過年度調査 (H29 年度) 結果

過年度調査 (H29 年度 : 左表) と本年度調査 (右表 : 再掲)

項目	重量(kg)	容量(L)	個数
人工物	185.7	916	323
自然物	18.0	60	17
合計	203.7	976	340

項目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物	279.3	1,963	10,603
自然物	379.1	920	14
合計	658.4	2,883	10,617

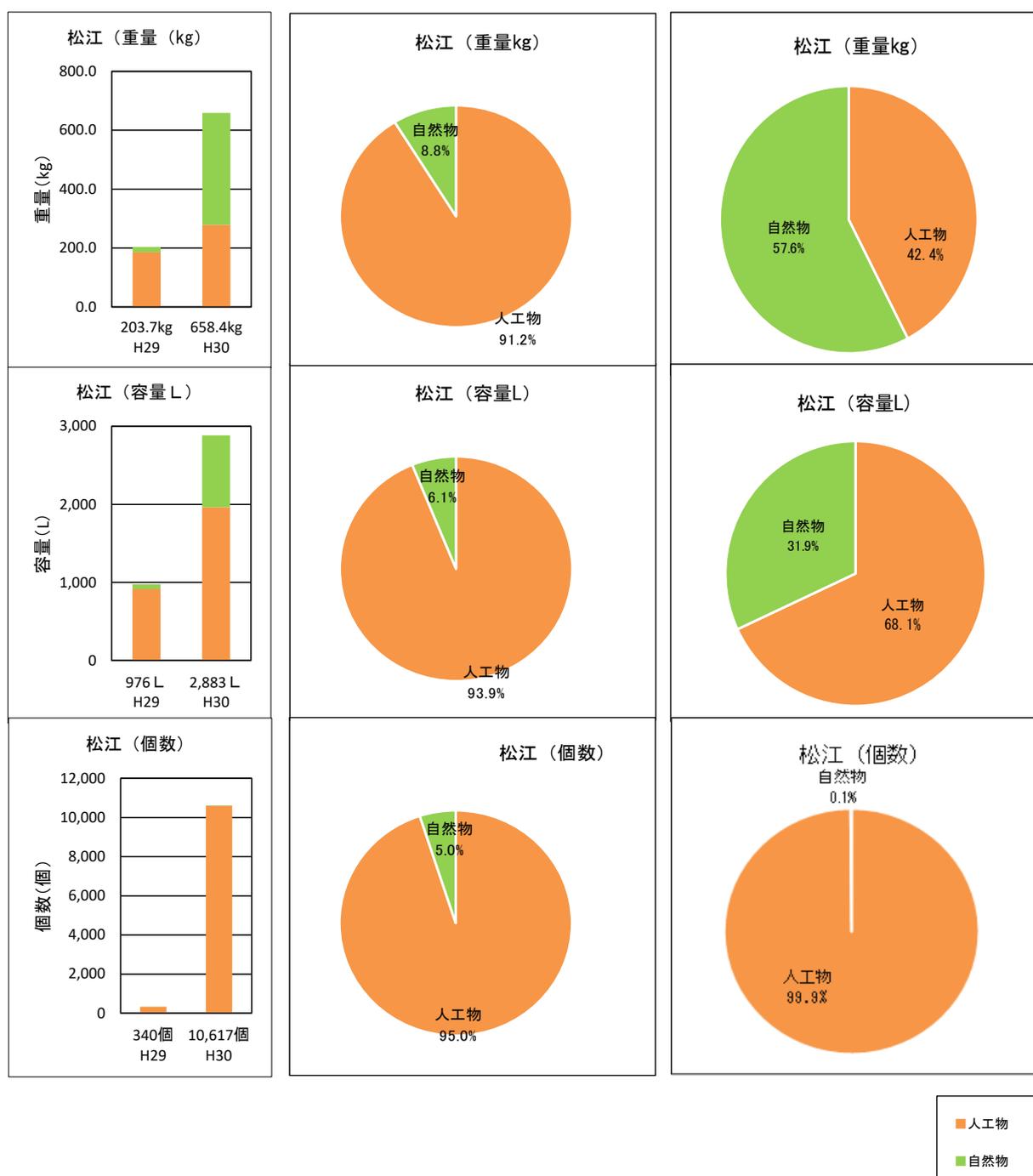


図 2.2-29 過年度調査 (H29 年度) 結果

左図 (棒グラフ) : 過年度調査 (H29 年度 : 左側) と本年度調査 (右側)
 中図と右図 (円グラフ) : 過年度調査 (H29 年度 : 中図) と本年度調査 (右図 : 再掲)

2.2.9 宮崎県日南市栄松ビーチ

宮崎県日南市の栄松ビーチは、海岸線長約 450m の砂・礫浜である。黒潮の中流に位置し、黒潮の影響を受ける開放性の海岸である。本調査以外にごみの回収が年に 1 回程度実施されている。

本調査地点で回収された漂着ごみは、重量 117.3kg、容量 1,478L、個数 430 個であった。

2 分類別の組成は、重量、容量ともに、自然物がそれぞれ 75.1%、67.6% と多く、個数では人工物が 68.6% と多かった。重量、容量の割合が多かった自然物は流木、灌木で、個数の多かった人工物はプラスチックであった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともにプラスチックが多く、それぞれ 56.2%、87.0%、91.2% であった。重量、容量、個数の割合が多かったプラスチックは飲料用ボトル (4.4kg、125L、132 個) で、ポリ袋も比較的多かった。

プラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量ともに、漁具がそれぞれ 44.9%、41.5% と多かった。個数は容器包装が 75.1% と多かった。重量、容量の割合が多かった漁具は漁網、ロープ (4.4kg、90.0L) であった。個数の割合が多かった容器包装は飲料用ボトル (132 個) であった。

過年度調査 (H29 年度) で回収された漂着ごみは、重量 114.4kg、容量 472L、個数 300 個であった。本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、重量では、自然物が増加して、人工物が減少していた。容量、個数では自然物が大きく増加しており、漁具も増加していた。

2 分類別の組成は、重量では、自然物が 62.1% と多かった。容量、個数では、人工物がそれぞれ 74.6%、91.3% と多かった。

本年度調査結果と過年度調査結果を比較すると、2 分類では、概して、本年度調査では自然物が多かったが、過年度調査では人工物が多かった。



図 2.2-30 調査枠の回収前・回収後の状況等